FOMA® N702iD
データ通信マニュアル

本マニュアルでは、FOMA N702iDでデータ通信をする際に必要な事項についての説明をはじめ、CD-ROM内の「N702iD通信設定ファイル」「FOMA PC設定ソフト」のインストール方法などを説明しています。

目　次

Windows XPの操作手順について
本マニュアルでは、Windows XP Service Pack 2に対応した内容となっております。お使いの環境によっては操作手順や画面が一部異なる場合があります。

本FOMA端末から利用できるデータ通信について

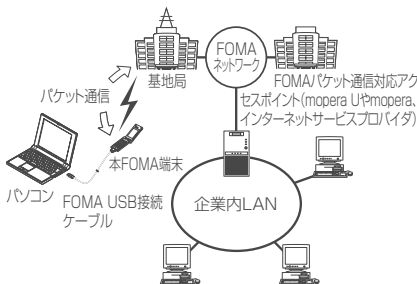
パケット通信と64Kデータ通信

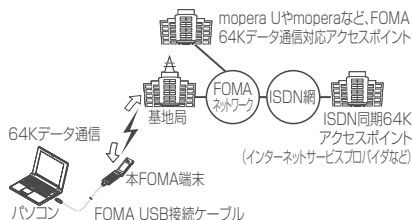
本FOMA端末とパソコンを接続して利用できるデータ通信は、パケット通信と64Kデータ通信に分類されます。

●パケット通信
受信最大384kbps、送信最大64kbpsの通信速度でデータを送受信します。パケット通信は通信時間や距離に関係なく、送受信されたデータ量に応じて課金されます。データ量の大きいファイルの送受信を行った場合、通信料金が高額になりますのでご注意ください。FOMAネットワークに接続された企業内LANにアクセスし、データの送受信を行うこともできます。

●64Kデータ通信
64kbpsの安定した通信速度でデータを送受信することができます。データ量に関係なく、接続された時間に応じて課金されます。

■パケット通信をするには

パケット通信はFOMA USB接続ケーブル（別売）を使ってパソコンと接続したり、専用ケーブルでPDAと接続することにより通信を行います。
ドコモのインターネット接続サービス「mopera U」や「mopera」など、FOMAパケット通信に対応したアクセスポイントをご利用ください。

■64Kデータ通信をするには

64Kデータ通信は、FOMA USB接続ケーブルを使ってパソコンと接続したり、専用ケーブルでPDAと接続することにより通信を行います。
ドコモのインターネット接続サービス「mopera U」や「mopera」など、FOMA 64Kデータ通信に対応したアクセスポイントをご利用ください。

ご利用にあたっての留意点

インターネットサービスプロバイダの利用料について

インターネットを利用する場合は、ご利用になるインターネットサービスプロバイダに対する利用料が必要となる場合があります。この利用料は、FOMAサービスの利用料とは別に直接インターネットサービスプロバイダにお支払いいただきます。利用料の詳しい内容については、ご利用のインターネットサービスプロバイダにお問い合わせください。
ドコモのインターネット接続サービス「mopera U」または「mopera」をご利用いただけます。「mopera U」をご利用いただく場合は、お申し込みが必要（有料）となります。「mopera」をご利用いただく場合は、お申し込み手続き不要、月額使用料無料です。

接続先（インターネットサービスプロバイダなど）の設定について

パケット通信と64Kデータ通信では接続先が異なります。パケット通信を行うときはパケット通信対応の接続先、64Kデータ通信を行うときはFOMA64Kデータ通信、またはISDN同期64K対応の接続先をご利用ください。

・DoPaのアクセスポイントには接続できません。
・PIAFSなどのPHS64K/32Kデータ通信のアクセスポイントには接続できません。

ネットワークアクセス時のユーザ認証について

接続先によっては、接続時にユーザ認証（IDとパスワード）が必要な場合があります。その場合は、通信ソフト（ダイヤルアップネットワーク）でIDとパスワードを入力して接続してください。IDとパスワードは接続先のインターネットサービスプロバイダまたは接続先のネットワーク管理者から付与されます。詳しい内容については、インターネットサービスプロバイダまたは接続先のネットワーク管理者にお問い合わせください。

ブラウザ利用時のアクセス認証について

パソコンのブラウザでFirstPass対応サイトを利用する時のアクセス認証では FirstPass（ユーザ証明書）が必要です。CD-ROMからFirstPass PCソフトをインストールし、設定を行ってください。詳しくはCD-ROM内の「FirstPassPCSoft」フォルダ内の「FirstPassManual」（PDF形式）をご覧ください。

ご使用になる前に

動作環境について

データ通信を利用するためのパソコンの動作環境は以下のとおりです。

項 目	説 明
パソコン本体	・PC-AT互換機でCD-ROMドライブが使用できる機器 ・USBポート(Universal Serial Bus Specification Rev1.1準拠) ・ディスプレイ解像度800×600ドット、High Color(65,536色)以上を推奨
OS	・Windows 98※1、Windows Me、Windows 2000、Windows XP(各日本語版)
必要メモリ	・Windows 98、Windows Me:32Mバイト以上※2 ・Windows 2000:64Mバイト以上※2 ・Windows XP:128Mバイト以上※2
ハードディスク容量	・5Mバイト以上の空き容量※2

※1 : FirstPass PCソフトは、Windows 98に対応しておりません(Windows 98 SEには対応しております)。

※2 : 必要メモリ・ハードディスク容量は、パソコンのシステム構成によって異なることがあります。

おしらせ

- 本FOMA端末をドコモのPDA「musea」や「sigmarion Ⅱ」と接続してデータ通信を行う場合、「musea」や「sigmarion Ⅱ」をアップデートしてご利用ください。アップデートの方法などの詳細については、ドコモのホームページをご覧ください。
- 本FOMA端末は、Remote Wakeupには対応していません。
- 本FOMA端末は、FAX通信には対応していません。

必要な機器

本FOMA端末とパソコン以外に以下のハードウェア、ソフトウェアを使います。

・FOMA USB接続ケーブル(別売)
・CD-ROM「FOMA N702iD用CD-ROM」

おしらせ

- USBケーブルは専用の「FOMA USB接続ケーブル」をお買い求めください。パソコン用のUSBケーブルはコネクタ部の形状が異なるため使用できません。

手順を確認する

データ通信ではダイヤルアップ接続によって、FOMAデータ通信に対応したインターネットサービスプロバイダやLANに接続できます。

■「FOMA N702iD用CD-ROM」について

- N702iD通信設定ファイル(ドライバ)、FOMA PC設定ソフト、FirstPass PCソフトが入っています。
- N702iD通信設定ファイルとは、本FOMA端末とパソコンをFOMA USB接続ケーブル(別売)で接続して、パケット通信、64Kデータ通信やデータ転送(OBEX)を行うときに必要なソフトウェア(ドライバ)です。N702iD通信設定ファイルをインストールすることで、Windowsに各ドライバが組み込まれます。
  FOMA PC設定ソフトを使うと、パケット通信、64Kデータ通信の設定やダイヤルアップ作成を簡単に行うことができます。

設定完了までの流れ

パケット通信および64Kデータ通信を利用する場合の準備について説明します。

パソコンとの接続/N702iD通信設定ファイル(ドライバ)のインストール
・パソコンと本FOMA端末をFOMA USB接続ケーブル(別売)で接続します。→P.4
・N702iD通信設定ファイルをインストールします。→P.5

<FOMA PC設定ソフトを使って接続先の設定をする場合>

FOMA PC設定ソフトのインストール
・FOMA PC設定ソフトを使えるようにします。「FOMA PC設定ソフトをインストールする」→P.8

<パケット通信をする場合>

設定する※1
・mopera U、mopera →P.10
・そのほかのプロバイダ→P.11

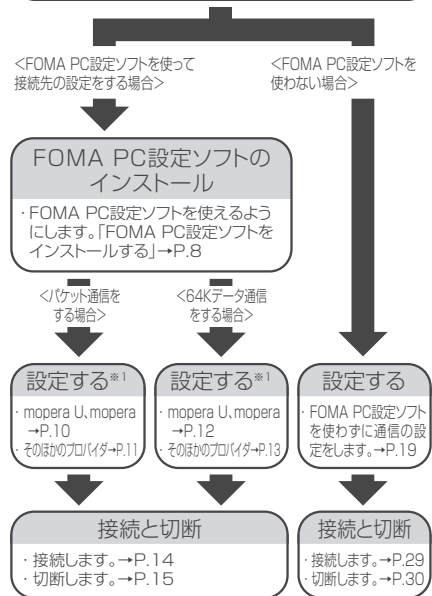
<64Kデータ通信をする場合>

設定する※1
・mopera U、mopera →P.12
・そのほかのプロバイダ→P.13

接続と切断
・接続します。→P.14
・切断します。→P.15

<FOMA PC設定ソフトを使わない場合>

設定する
・FOMA PC設定ソフトを使わずに通信の設定をします。→P.19

接続と切断
・接続します。→P.29
・切断します。→P.30

※1：FOMA端末とパソコンを接続してインターネットをするには、ブロードバンド接続や国際ローミング（本FOMA端末では非対応）等に対応した「mopera U」（お申し込み必要）が便利です。使用した月だけ月額使用料がかかるプランもあります。また、お申し込みが不要で今すぐインターネットに接続できる「mopera」もご利用いただけます。詳しくはドコモのホームページをご覧ください。

USBモード設定を「通信モード」にする

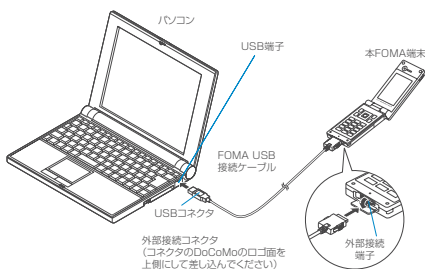
外部接続端子をパケット通信、64Kデータ通信によるデータ転送に使う準備をします。

1   ▶「外部接続」

2 「USBモード設定」▶「通信モード」

取り付け方法

FOMA USB接続ケーブル（別売）の取り付け方法について説明します。

● 取り付ける前に、「USBモード設定」を「通信モード」に設定してください。→P.4

1 本FOMA端末の外部接続端子の端子キャップを開ける

2 本FOMA端末の外部接続端子の向きを確認して、FOMA USB接続ケーブルの外部接続コネクタをまっすぐ「カチッ」と音がするまで差し込む

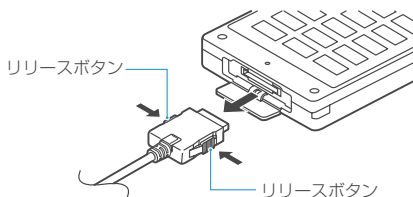
3 FOMA USB接続ケーブルのUSBコネクタを、パソコンのUSB端子に接続する

FOMA USB接続ケーブルを接続すると本FOMA端末の「 」が「 」に変わります。

おしらせ

● 本FOMA端末に表示される「 」は、N702iD通信設定ファイルのインストールを行い、パソコンとの接続が認識されたときに表示されます。通信設定ファイルのインストール前には、パソコンとの接続が認識されず、「 」が表示されたままになります。

取り外し方法

FOMA USB接続ケーブル（別売）の取り外し方法について説明します。

1 パソコンのUSB端子からFOMA USB接続ケーブルを引き抜く

2 FOMA USB接続ケーブルの外部接続コネクタのリリースボタンを押しながら、まっすぐ引き抜く

3 本FOMA端末の外部接続端子の端子キャップを閉じる

おしらせ

● FOMA USB接続ケーブルの取り付け・取り外しを連続して行うと、本FOMA端末がパソコンに正しく認識できなくなることがありますので間隔をおいて行ってください。

● 通信の切断・誤動作・データ消失の原因となるため、データ通信中にFOMA USB接続ケーブルの取り外しは行わないでください。

パソコンの設定をする

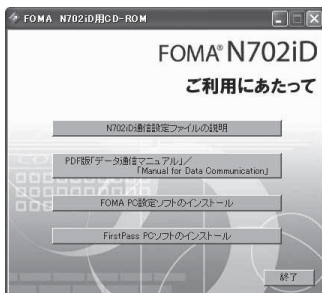
ここでは、パソコンとの接続から、N702iD通信設定ファイル（ドライバ）をインストールするまでの手順を説明します。

本FOMA端末とパソコンを接続する

1 FOMA USB接続ケーブル（別売）をパソコンのUSB端子に接続する

2 Windows を起動して、「FOMA N702iD用CD-ROM」をパソコンにセットする

3 「終了」をクリックして、「FOMA N702iDご利用にあたって」画面を終了させる

この画面は、「FOMA N702iD用CD-ROM」をパソコンにセットすると自動的に表示されます。表示されない場合は、そのまま操作5へ進みます。
N702iD通信設定ファイルのインストール中にこの画面が表示された場合も「終了」をクリックします。

4 「終了」をクリックして、「お問い合わせ先」画面を終了させる

5 本FOMA端末の電源を入れて、パソコンと接続したFOMA USB接続ケーブルを本FOMA端末に接続する

Windows 98、Windows Meの場合
　「新しいハードウェアの追加ウィザード」画面が表示される

Windows 2000、Windows XPの場合
　「新しいハードウェアの検出ウィザード」画面が表示される

N702iD通信設定ファイル（ドライバ）をインストールする

● Windows 2000またはWindows XPでN702iD通信設定ファイルのインストールを行う場合は、必ずパソコンの管理者権限を持ったユーザアカウントで行ってください。それ以外のアカウントでインストールを行うとエラーとなります。パソコンの管理者権限の設定操作については、各パソコンメーカ、マイクロソフト社にお問い合わせください。

● N702iD通信設定ファイルのインストール手順は、OSによって異なります。ご利用になるパソコンのOSに合った説明を参照してください。
Windows 98、Windows Meの場合は下記を参照してください。
Windows 2000、Windows XPの場合はP.6へ進みます。

● Windows 98／Windows Meの場合

1 本FOMA端末にFOMA USB接続ケーブル（別売）を接続する

「本FOMA端末とパソコンを接続する」（P.4）の操作5でFOMA USB接続ケーブルを本FOMA端末に接続すると、自動的に「新しいハードウェアの追加ウィザード」の画面が表示されます。

Windows 98の場合
　「次へ」をクリックする

2 「ドライバの場所を指定する（詳しい知識のある方向け）」を選択し、「次へ」をクリックする

Windows 98の場合
　「使用中のデバイスに最適なドライバを検索する（推奨）」を選択し、「次へ」をクリックする

3 「使用中のデバイスに最適なドライバを検索する（推奨）」を選択し、「検索場所の指定」をチェックし、「参照」をクリックして検索するフォルダを指定し、「次へ」をクリックする

フォルダは、「<CD-ROMドライブ名>：¥USB Driver¥Win98」を指定します。
CD-ROMドライブ名はお使いのパソコンによって異なります。

Windows 98の場合
　「検索場所の指定」をチェックしてフォルダを指定し「次へ」をクリックする
　「更新されたドライバ（推奨）」を選択し、「次へ」をクリックする

4 ドライバ名を確認し、「次へ」をクリックする

ここでは「FOMA N702iD」と表示されます。

5 「新しいハードウェアのインストールが完了しました。」と表示されたら、「完了」をクリックする

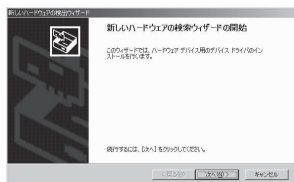
Windows 98の場合
　「新しいハードウェアデバイスに必要なソフトウェアがインストールされました。」と表示されます。

6 ほかのドライバもインストールする

引き続き、操作1～5を参考にして、残りの6つのドライバ（P.7）をすべてインストールします。操作5の終了後、「新しいハードウェアの追加ウィザード」画面が出なくなれば、ドライバのインストールは終了です。「インストールしたドライバを確認する」（P.7）に進みます。

● Windows 2000の場合

1 本FOMA端末にFOMA USB接続ケーブル（別売）を接続する

「本FOMA端末とパソコンを接続する」（P.4）の操作5でFOMA USB接続ケーブルを本FOMA端末に接続すると、自動的に次の画面が表示されます。

2 「次へ」をクリックする

3 「デバイスに最適なドライバを検索する（推奨）」を選択し、「次へ」をクリックする

4 「場所を指定」をチェックして「次へ」をクリックする

5 検索するフォルダを指定し、「OK」をクリックする

フォルダは、「<CD-ROMドライブ名>：¥USB Driver¥Win2000」を指定します。
CD-ROMドライブ名はお使いのパソコンによって異なります。

6 ドライバ名を確認し、「次へ」をクリックする

ここでは「FOMA N702iD」と表示されます。

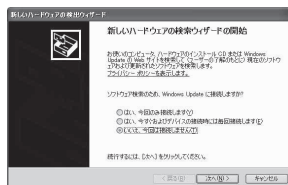
7 「新しいハードウェアの検索ウィザードの完了」と表示されたら、「完了」をクリックする

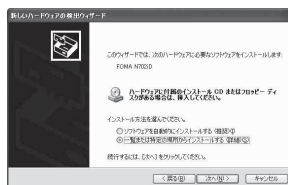
8 ほかのドライバもインストールする

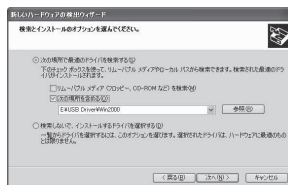
引き続き、操作1～7を参考にして、残りの3つのドライバ（P.7）をすべてインストールします。操作7の終了後、「新しいハードウェアの検出ウィザード」画面が出なくなれば、ドライバのインストールは終了です。「インストールしたドライバを確認する」（P.7）に進みます。

● Windows XPの場合

1 本FOMA端末にFOMA USB接続ケーブル（別売）を接続する

「本FOMA端末とパソコンを接続する」（P.4）の操作5でFOMA USB接続ケーブルを本FOMA端末に接続すると、自動的に次の画面が表示されます。

2 「いいえ、今回は接続しません」を選択し、「次へ」をクリックする

3 「一覧または特定の場所からインストールする（詳細）」を選択し、「次へ」をクリックする

4 「次の場所で最適のドライバを検索する」を選択し、「リムーバブルメディア（フロッピー、CD-ROMなど）を検索」のチェックを外し、「次の場所を含める」をチェックして検索するフォルダを指定し、「次へ」をクリックする

フォルダは「<CD-ROMドライブ名>: ¥USB Driver¥Win2000」を指定します。
CD-ROMドライブ名はお使いのパソコンによって異なります。この画面ではCD-ROMドライブ名が「E」です。
ドライバはWindows 2000と共通です。

⑤「新しいハードウェアの検索ウィザードの完了」と表示されたら、「完了」をクリックする

⑥ほかのドライバもインストールする

引き続き、操作1～5を参考にして、残りの3つのドライバ（P.7）をすべてインストールします。
操作5の終了後、「新しいハードウェアの検出ウィザード」画面が出なくなればドライバのインストールは終了です。
すべてのドライバのインストールが完了すると、タスクバーのインジケータから「新しいハードウェアがインストールされ、使用準備ができました。」というメッセージが数秒間表示されます。「インストールしたドライバを確認する」（P.7）に進みます。

インストールしたドライバを確認する

N702iD通信設定ファイルが正しくインストールされていることを確認します。

①Windowsのコントロールパネルを開く

Windows 98、Windows Me、Windows 2000の場合

「スタート」→「設定」→「コントロールパネル」を選択

Windows XPの場合

「スタート」→「コントロールパネル」を選択

②コントロールパネル内の「システム」を開く

Windows Meの場合

コントロールパネルに「システム」アイコンが表示されないときは「すべてのコントロールパネルのオプションを表示する」をクリックする

Windows XPの場合

「パフォーマンスとメンテナンス」から「システム」アイコンをクリックする

③デバイスマネージャを開く

Windows 98、Windows Meの場合

「デバイスマネージャ」タブをクリックする

Windows 2000、Windows XPの場合

「ハードウェア」タブをクリックし、「デバイスマネージャ」をクリックする

④各デバイスをクリックしてインストールされたドライバ名を確認する

「ポート（COMとLPT）」、「ユニバーサルシリアルバスコントローラ」、「モデム」の下にすべてのドライバ名が表示されていることを確認します。
ドライバ名を確認したら、「FOMA PC設定ソフトについて」（P.8）へ進みます。

デバイス名	ドライバ名
ポート（COMとLPT）	・ FOMA N702iD Command Port ・ FOMA N702iD OBEX Port
モデム	・ FOMA N702iD
ユニバーサルシリアルバスコントローラ、またはUSB（Universal Serial Bus）コントローラ	・ FOMA N702iD ・ FOMA N702iD Command※1 ・ FOMA N702iD Modem※1 ・ FOMA N702iD OBEX※1

※1：Windows 98/Meのみ

おしらせ

● 上記の確認を行った際、すべてのドライバ名が表示されない場合や、間違って違うOS用の通信設定ファイルをインストールした場合は、アンインストール（P.7）の手順に従ってN702iD通信設定ファイルを削除してから、再度インストールしてください。

N702iD通信設定ファイルをアンインストールする

ドライバのアンインストールが必要な場合（Windowsをバージョンアップした場合など）は、以下の手順で行ってください。ここではWindows XPを例にしてアンインストールを説明します。

● 本FOMA端末を接続している状態で「プログラムの追加と削除」を実行した場合は、本FOMA端末が接続されているというメッセージが表示され、アンインストールを実行できません。
● Windows 2000またはWindows XPでN702iD通信設定ファイルのアンインストールを行う場合は、必ずパソコンの管理者権限を持ったユーザアカウントで行ってください。それ以外のアカウントでアンインストールを行うとエラーになります。パソコンの管理者権限の設定操作については、各パソコンメーカ、マイクロソフト社にお問い合わせください。

❶ 本FOMA端末とパソコンがFOMA USB接続ケーブル（別売）で接続されている場合は、FOMA USB接続ケーブルを取り外す

❷ Windowsの「プログラムの追加と削除」を起動する

「スタート」→「コントロールパネル」→「プログラムの追加と削除」をクリックする

❸「FOMA N702iD USB」を選択して「変更と削除」をクリックする

❹「OK」をクリックしてアンインストールする

アンインストールを中止する場合は「キャンセル」をクリックします。

❺「はい」をクリックしてWindowsを再起動する

以上でアンインストールは終了です。
「いいえ」をクリックした場合は、手動で再起動をしてください。

おしらせ

- Windowsの「プログラムの追加と削除」に「FOMA N702iD USB」が表示されていない場合は、次のように操作をしてください。
  ①「スタート」→「マイコンピュータ」を開く
  ②CD-ROMアイコンを右クリックし、「開く」を選択
  ③CD-ROM内の「USB Driver」→「Win98」または「Win2000」フォルダを開く
  ④「n702idun.exe」※1をダブルクリックする
  ※1：お使いのパソコンの設定によっては「n702idun」と表示されることがあります。

FOMA PC設定ソフトについて

FOMA PC設定ソフトを使うと、簡単な操作で以下の設定ができます。

- FOMA　PC設定ソフトを使わずに、パケット通信や64Kデータ通信を設定することもできます。→P.19

本FOMA端末とパソコンとの接続については、P.4を参照してください。

かんたん設定

ガイドに従い操作することで、「FOMAデータ通信用ダイヤルアップの作成」を行い、同時に「W-TCPの設定」などを行います。

W-TCPの設定

「FOMAパケット通信」を利用する前に、パソコン内の通信設定を最適化します。
通信性能を最大限に活用するには、W-TCP設定による通信設定の最適化が必要となります。

接続先（APN）の設定

パケット通信を行う際に必要な接続先（APN）の設定を行います。
FOMAパケット通信の接続先には、64Kデータ通信と異なり電話番号は使用しません。あらかじめ接続先ごとに、本FOMA端末にAPN（Access Point Name）と呼ばれる接続先名を登録し、その登録番号（cid）を接続先電話番号欄に指定して接続します。moperaについては cid の1番に「APN: mopera.ne.jp」、mopera Uについてはcidの3番に「APN: mopera.net」がお買い上げ時に登録されていますが、その他のプロバイダや企業内LANに接続する場合はAPN設定が必要になります。
cid [Context Identifier]…FOMA端末に登録するパケット通信での接続先（APN）を管理する番号。本FOMA端末にAPN登録をするときに設定します。

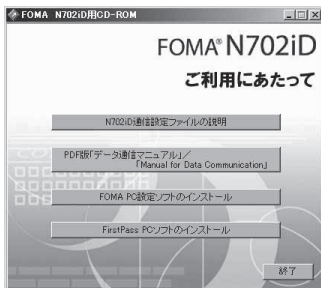
おしらせ

- N702iD通信設定ファイルの確認で本FOMA端末がCOM20より大きい番号として認識されている場合は、APNの設定の際、APN情報の取得・書き込みができません。その場合は「ハイパーターミナル」を使って設定します。「接続先（APN）を設定する」→P.21

FOMA PC設定ソフトをインストールする

- インストールする前に動作環境を確認してください。→P.3
- Windows 2000またはWindows XPで「FOMA PC設定ソフト」のインストールを行う場合は、必ずパソコンの管理者権限を持ったユーザアカウントで行ってください。それ以外のアカウントでインストールを行うとエラーとなります。パソコンの管理者権限の設定操作については、各パソコンメーカ、マイクロソフト社にお問い合わせください。
- 702i シリーズより前に発売されたFOMA 端末に添付の「FOMA PC設定ソフト」がインストールされている場合は、あらかじめそれらのソフトをアンインストールしてください。

❶ CD-ROMをパソコンにセットし、「FOMA PC設定ソフトのインストール」をクリックする

「FOMA N702iDご利用にあたって」画面が自動的に表示されます。CD-ROMが自動再生されない場合は、「マイコンピュータ」からCD-ROMアイコンを右クリックし、「開く」を選択し、「start. exe」をダブルクリックします。次に「FOMA PC設定ソフトのインストール」をクリックします。

❷「次へ」をクリックする

セットアップをはじめる前に、現在使用中または常駐しているほかのプログラムがないことを確認してください。使用中のプログラムがあった場合は、「キャンセル」をクリックし、使用中のプログラムを終了させた後、インストールを再開してください。
旧W-TCP設定ソフトおよび旧APN設定ソフトがインストールされているという画面が出た場合は、P.9を参照してください。

❸「FOMA PC設定ソフト」の使用許諾契約書の内容を確認の上、契約内容に同意する場合は「はい」をクリックする

「いいえ」をクリックし、「はい」をクリックすると、インストールは中止されます。

❹「次へ」をクリックする

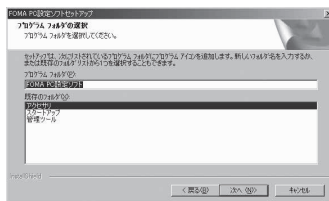
セットアップ後、タスクトレイに「W-TCP設定」常駐の可否を選択できます。
「W-TCP通信」の最適化の設定･解除を操作する機能で、常駐をおすすめします。
とくに問題がない場合は「タスクトレイに常駐する」を☑にしたまま「次へ」をクリックして、インストールを続行してください。「タスクトレイに常駐する」のチェックを外して設定した場合でもFOMA PC設定ソフトの「メニュー」、「W-TCP設定をタスクトレイに常駐させる」を選択することにより設定を変更できます。
（参考）:「タスクトレイに常駐する」設定が有効になっている場合は選択できません。

デスクトップ右下のタスクトレイに表示されます。

❺ インストール先を確認し、「次へ」をクリックする

変更がある場合は「参照」をクリックし、任意のインストール先を指定して「次へ」をクリックしてください。
ハードディスクスペースの問題などで、違うドライブにインストールすることもできますが、そのままお進みください。

❻ プログラムフォルダのフォルダ名を確認し、「次へ」をクリックする

変更がある場合は新規フォルダ名を入力し、「次へ」をクリックします。

❼「完了」をクリックする

セットアップを完了すると、「FOMA PC設定ソフト」の操作画面が起動します。このまま各種設定をはじめられます。

FOMA PC設定ソフトインストール時の注意

<旧W-TCP設定ソフトがインストールされている場合>

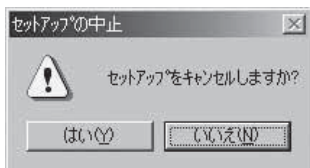
・「アプリケーション（プログラム）の追加と削除」から旧W-TCP設定ソフトを削除してください。

<旧APN設定ソフトがインストールされている場合>

・「OK」をクリックすると、旧APN設定ソフトのアンインストールが自動的に行われた後、FOMA PC設定ソフトがインストールされます。

＜FOMA PC設定ソフトがすでにインストールされている場合＞

・「OK」をクリックすると、インストールが中止されます。すでにインストールされている「FOMA PC設定ソフト」を「アプリケーション（プログラム）の追加と削除」からアンインストールして、インストールし直してください。
・古いバージョンの「FOMA PC設定ソフト」がインストールされている場合も同様の操作を行ってください。

＜インストール途中で「キャンセル」を押した場合＞

・インストールを継続する場合は「いいえ」を、中止する場合は、「はい」をクリックしてください。

各種設定の方法

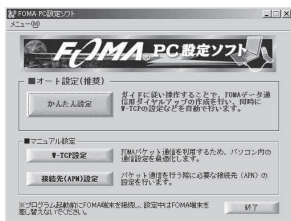
通信設定をする前に、本FOMA端末がFOMA USB接続ケーブル（別売）によりご利用のパソコンに接続され、かつパソコンのデバイス上に通信設定ファイルが正しく認識されている必要があります。

● 本FOMA端末がCOM20より大きい番号として認識されている場合は、「FOMA PC設定ソフト」は動作しません。

1 「スタート」→「プログラム」→「FOMA PC設定ソフト」の順に開く

Windows XPの場合

「スタート」→「すべてのプログラム」→「FOMA PC設定ソフト」を開く

FOMA PC設定ソフトを起動すると次の操作画面が表示されます。

かんたん設定「mopera U または moperaを利用したパケット通信設定方法」

● 最大 384kbps のパケット通信の設定を行います。プロバイダは、ドコモのインターネット接続サービスmopera Uまたはmoperaを利用します。
パケット通信：受信最大384kbps、送信最大64kbps（一部機種を除く）のパケット通信が可能です。送受信したデータ量に応じて課金されますので、時間を気にせずデータ通信ができます。

● 「パケット通信」を利用して画像を含むサイトやインターネットホームページの閲覧、ファイルのダウンロードなどのデータ量の多い通信を行うと、通信料が高額となりますのでご注意ください。

1 「かんたん設定」をクリックする

2 「パケット通信」を選択し、「次へ」をクリックする

3 「［mopera U］への接続」または「［mopera］への接続」を選択し、「次へ」をクリックする

mopera Uまたはmopera以外のプロバイダをご利用のお客様は、P.11を参照してください。

4 「OK」をクリックする

パソコンに接続された本FOMA端末から接続先（APN）設定を取得します。しばらくお待ちください。

5 接続名を入力し、「次へ」をクリックする

現在作成している接続の名前を自由に設定できます。わかりやすい名前を「接続名」欄にご入力ください。
接続名は、大文字・小文字等に注意し、正確に入力してください。
入力禁止文字 ¥/:＊?!<>｜”（半角のみ）は使用できません。

❻ ユーザー名･パスワードを設定し、「次へ」をクリックする

mopera Uまたはmopera接続の場合は、ユーザー名・パスワードについては空欄でも構いません。

（Windows 2000、Windows XP）

Windows 2000 およびWindows XP の場合はユーザーの選択をしてください。
「すべてのユーザー」を選択するとWindowsに登録されているすべてのユーザーに対して接続が設定されます。
ユーザー名・パスワードの設定は、プロバイダから提供された各種情報を、大文字・小文字等に注意し、正確に入力してください。

❼ 「最適化を行う」をチェックし、「次へ」をクリックする

「パケット通信」に必要な「W-TCP設定」を最適化します。すでに最適化されている場合には、この画面は表示されません。

❽ 設定情報を確認し、「完了」をクリックする

設定された内容が一覧で表示されます。設定内容に誤りがないことを確認してください。
「デスクトップにダイヤルアップのショートカットを作成する」をチェックすれば自動的にショートカットが作成されます。
設定内容を変更する場合は「戻る」をクリックします。

❾ 「OK」をクリックする

設定変更を有効にするためには、パソコンを再起動する必要があります。再起動の選択画面が表示された場合は「はい」をクリックします。
設定した通信を実行します。→P.14

かんたん設定「その他のプロバイダを利用したパケット通信設定方法」

❶ 「かんたん設定」をクリックする

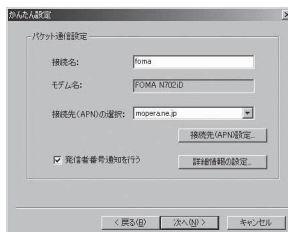
❷ 「パケット通信」を選択し、「次へ」をクリックする

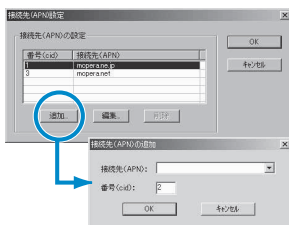
❸ 「その他」を選択し、「次へ」をクリックする

❹ 「OK」をクリックする

パソコンに接続された本FOMA端末から接続先（APN）設定を取得します。
しばらくお待ちください。

❺ パケット通信設定を行う

端末設定取得が完了すると、「パケット通信設定」画面が表示されます。
「接続名」の空欄に任意の接続名を入力してください。
接続名は、大文字・小文字等に注意し、正確に入力してください。
入力禁止文字 ¥/: ＊?!<> | ”（半角のみ）は使用できません。
「発信者番号通知を行う」をチェックすると、通信実行時に発信者番号を通知します。
「接続先（APN）の選択」欄には標準でmopera Uに接続するためのAPN:mopera.netとmoperaに接続するためのAPN:mopera.ne.jpが設定されています。

⑥「接続先（APN）設定」をクリックする

お買い上げ時、cid1にはmoperaの接続先（APN）「mopera.ne.jp」が、cid3にはmopera Uの接続先（APN）「mopera.net」が登録されていますので、cidは2または4～10番に設定します。
「追加」をクリックして表示される「接続先（APN）の追加」画面で、ご利用のプロバイダのFOMAパケット通信に対応した接続先（APN）を正しく入力し、「OK」をクリックしてください。「接続先（APN）設定」画面に戻ります。
接続先には、半角文字で英数字、ハイフン（-）、ピリオド（.）のみ入力できます。

⑦接続先を選択し、「OK」をクリックする

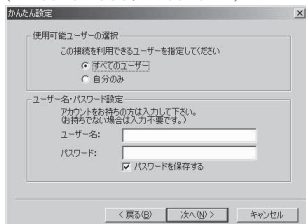
操作5の画面に戻ります。
「接続先（APN）の選択」には、操作6で設定した接続先（APN）が表示されます。

⑧「接続先（APN）の選択」で接続先（APN）を確認し、「次へ」をクリックする

<高度な設定（TCP／IPの設定）をする場合>
「詳細情報の設定」をクリックすると、「IPアドレス」・「ネームサーバー」の設定画面が表示されます。ご加入のプロバイダや、社内LAN等のダイヤルアップ情報として入力が必要な場合は、入力指示情報を元に、各種アドレスを登録してください。

⑨ユーザー名･パスワードを設定し、「次へ」をクリックする

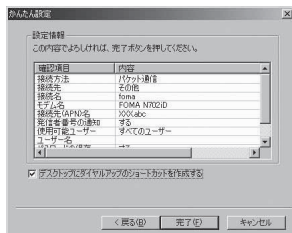
Windows 2000およびWindows XPの場合はユーザーの選択をしてください。
「すべてのユーザー」を選択するとWindowsに登録されているすべてのユーザーに対して接続が設定されます。

（Windows 2000、Windows XP）

ユーザー名・パスワードの設定は、プロバイダから提供された各種情報を、大文字・小文字等に注意し、正確に入力してください。

⑩「最適化を行う」をチェックし、「次へ」をクリックする

「パケット通信」に必要な「W-TCP設定」を最適化します。すでに最適化されている場合には、この画面は表示されませんので、操作11に進みます。

⑪設定情報を確認し、「完了」をクリックする

設定された内容が一覧で表示されます。設定内容に誤りがないことを確認してください。
「デスクトップにダイヤルアップのショートカットを作成する」をチェックすれば自動的にショートカットが作成されます。
設定内容を変更する場合は「戻る」をクリックします。

⑫「OK」をクリックする

設定変更を有効にするためには、パソコンを再起動する必要があります。再起動の選択画面が表示された場合は「はい」をクリックしてください。
設定した通信を実行します。→P.14

かんたん設定「mopera Uまたはmoperaを利用した64K通信設定方法」

- 通信速度64kbpsの64Kデータ通信の設定を行います。プロバイダは、ドコモのインターネット接続サービスmopera Uまたはmoperaを利用します。
- 64Kデータ通信は接続していた時間に応じて課金されます。64kbpsの安定した通信速度によって快適なインターネットアクセスが実現できます。

①「かんたん設定」をクリックする

②「64Kデータ通信」を選択し、「次へ」をクリックする

③「［mopera U］への接続」または「［mopera］への接続」を選択し、「次へ」をクリックする

mopera Uまたはmopera以外のプロバイダをご利用のお客様は、P.13を参照してください。

❹ 接続名の入力とモデムを選択し、「次へ」をクリックする

「64Kデータ通信設定」画面になります。現在作成している接続の名前を自由に設定できます。わかりやすい名前を「接続名」欄にご入力ください。
接続名は、大文字・小文字等に注意し、正確に入力してください。
入力禁止文字 ¥/: ＊?!<> | ”（半角のみ）は使用できません。
FOMA USB接続ケーブル（別売）を使う場合、モデム名は「FOMA N702iD」を選択します。

❺ ユーザー名･パスワードを設定し、「次へ」をクリックする

mopera Uまたはmopera接続の場合は、ユーザー名・パスワードについては空欄でも構いません。

（Windows 2000、Windows XP）

Windows 2000 およびWindows XP の場合はユーザーの選択をしてください。
「すべてのユーザー」を選択するとWindowsに登録されているすべてのユーザーに対して接続が設定されます。
ユーザー名・パスワードの設定は、プロバイダから提供された各種情報を、大文字・小文字等に注意し、正確に入力してください。

❻ 設定情報を確認し、「完了」をクリックする

設定された内容が一覧で表示されます。設定内容に誤りがないことを確認してください。
「デスクトップにダイヤルアップのショートカットを作成する」をチェックすれば自動的にショートカットが作成されます。
設定内容を変更する場合は「戻る」をクリックします。

❼「OK」をクリックする

設定した通信を実行します。→P.14

かんたん設定「その他のプロバイダを利用した64K通信設定方法」

❶「かんたん設定」をクリックする

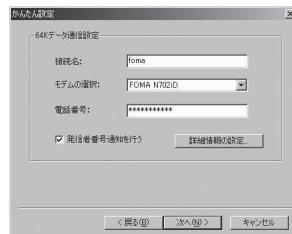
❷「64Kデータ通信」を選択し、「次へ」をクリックする

❸「その他」を選択し、「次へ」をクリックする

❹ ダイヤルアップ情報を入力し、「次へ」をクリックする

mopera Uまたはmopera以外のISDN同期64Kアクセスポイントを持つサービスプロバイダに接続する場合は、ダイヤルアップ作成時に、以下の項目を登録します。

- 接続名（任意）
- モデムの選択（FOMA N702iD）
- 電話番号

接続名は、大文字・小文字等に注意し、正確に入力してください。
入力禁止文字 ¥/: ＊?!<> | ”（半角のみ）は使用できません。

プロバイダ情報を元に正しく入力してください。
電話番号は、大文字・小文字等に注意し、半角文字で正確に入力してください。

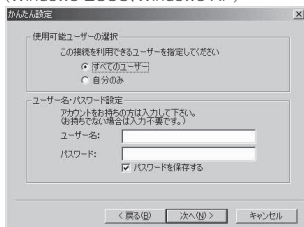
「発信者番号通知を行う」をチェックすると、通信実行時に発信者番号を通知します。

<高度な設定（TCP／IPの設定）をする場合>

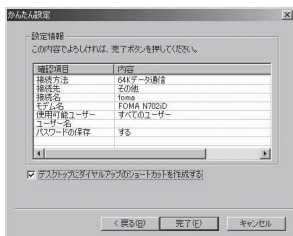
「詳細情報の設定」をクリックすると「IPアドレス」、「ネームサーバー」の設定画面が表示されます。ご加入のプロバイダや、社内LAN等のダイヤルアップ情報として入力が必要な場合は、入力指示情報を元に、各種アドレスを登録してください。

5 ユーザー名･パスワードを設定し、「次へ」をクリックする

Windows 2000 およびWindows XP の場合はユーザーの選択をしてください。
「すべてのユーザー」を選択するとWindowsに登録されているすべてのユーザーに対して接続が設定されます。

（Windows 2000、Windows XP）

ユーザー名・パスワードの設定は、プロバイダから提供された各種情報を、大文字・小文字等に注意し、正確に入力してください。

6 設定情報を確認し、「完了」をクリックする

設定された内容が一覧で表示されます。設定内容に誤りがないことを確認してください。
「デスクトップにダイヤルアップのショートカットを作成する」をチェックすれば自動的にショートカットが作成されます。
設定内容を変更する場合は「戻る」をクリックします。

7 「OK」をクリックする

設定した通信を実行します。→P.14

設定した通信を実行する

● FOMA USB接続ケーブル（別売）でデータ通信をする場合、ダイヤルアップアイコンからの発信は、アイコン作成時のFOMA端末のみ有効です。
したがって、異なるFOMA端末を接続する場合は、再度、通信設定ファイルのインストールが必要となります。

1 デスクトップの接続アイコンをダブルクリックする

デスクトップに接続アイコンがない場合は次の操作を行ってください。

Windows 98／Windows Meの場合

「スタート」→「プログラム」→「アクセサリ」→「通信」→「ダイヤルアップネットワーク」→接続先を開く

Windows 2000の場合

「スタート」→「プログラム」→「アクセサリ」→「通信」→「ネットワークとダイヤルアップ接続」→接続先を開く

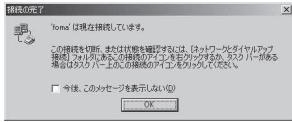
Windows XPの場合

「スタート」→「すべてのプログラム」→「アクセサリ」→「通信」→「ネットワーク接続」→接続先を開く

2 「ダイヤル」をクリックし、接続を実行する

mopera Uまたはmoperaを選択した場合は「ユーザー名」･「パスワード」については空欄でも構いません。その他のプロバイダやダイヤルアップ接続の場合は、「ユーザー名」･「パスワード」を入力し、「ダイヤル」をクリックしてください。
「パスワードを保存する」をチェックすると、次回からは入力の必要がなくなります。

❸ 接続されたことを確認し、「OK」をクリックする

通常の状態で、ダイヤルアップを接続すると、次のような接続画面が表示されます。
以前に「接続」のメッセージを表示しない設定にしてあると、この画面は表示されません。

● パケット通信中には、通信状態によって本FOMA端末にアイコンが表示されます。

（通信中、データ送信中）
（通信中、データ受信中）
（通信中、データ送受信なし）
（発信中、または切断中）
（着信中、または切断中）

● 64Kデータ通信中には、本FOMA端末に「 」が表示されます。

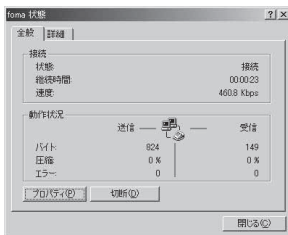
切断のしかた

インターネットブラウザを終了しただけでは切断されていない場合がありますので、以下の操作で確実に切断してください。

❶ タスクトレイのダイヤルアップアイコンをダブルクリックする

接続の画面が表示されます。

ダイヤルアップアイコン

❷ 「切断」をクリックする

おしらせ

● パソコンに表示される通信速度は、実際の通信速度とは異なる場合があります。

こんなときは

● ネットワークに接続できない（ダイヤルアップ接続ができない）場合は、まず以下の項目について確認してください。

現　象	チェックする箇所
「FOMA N702iD」がパソコン上で認識できない	・お使いのパソコンが動作環境（P.3）を満たしているかを確認してください。 ・N702iD通信設定ファイルがインストールされているか確認してください。 ・本FOMA端末がパソコンに接続され、電源が入っているか確認してください。 ・FOMA USB接続ケーブル（別売）がしっかりと接続されていることを確認してください。 ・USBモード設定（P.4）が「通信モード」になっているか確認してください。
相手先に接続できない	・ID（ユーザー名）やパスワードの設定が正しいかどうか確認してください。 ・FOMA USB接続ケーブル（別売）がしっかりと接続されていることを確認してください。 ・接続先が発信者番号の通知を要求する場合は、電話番号に「184」を付加していないかどうかを確認してください。 ・モデムのプロパティで「フロー制御を使う」にチェックが付いていることを確認してください。 ・接続先のAPNが正しいかどうかを確認してください。 ・上記の確認を行っても相手先に接続できない場合は、インターネットサービスプロバイダまたはネットワーク管理者に設定方法などについてご相談ください。

FOMA PC設定ソフトをアンインストールする

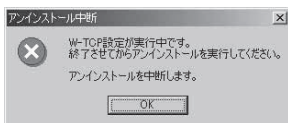
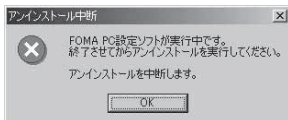
FOMA PC設定ソフトのアンインストール手順を説明します。

● Windows 2000またはWindows XPで「FOMA PC設定ソフト」のアンインストールを行う場合は、必ずパソコンの管理者権限を持ったユーザアカウントで行ってください。それ以外のアカウントでアンインストールを行うとエラーとなります。パソコンの管理者権限の設定操作については、各パソコンメーカ、マイクロソフト社にお問い合わせください。

❶ アンインストールを実行する前に

「FOMA PC設定ソフト」をアンインストールする前に、FOMA用に変更された内容を元に戻す必要があります。

(1) タスクトレイに常駐している「W-TCP設定」を常駐させないようにする
デスクトップ右下のタスクトレイの「W-TCPアイコン」を右クリックして「常駐させない」をクリックする。

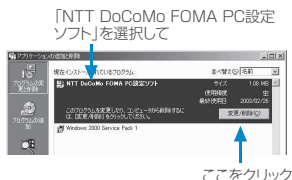
(2) 起動中のプログラムを終了させる
「FOMA PC設定ソフト」や「W-TCP設定」が起動中にアンインストールを実行しようとすると、次のような画面が表示されます。アンインストールプログラムを中断し、それぞれのプログラムを終了させてください。

2 Windowsの「アプリケーションの追加と削除」を起動する

Windows 98、Windows Me、Windows 2000の場合

「スタート」→「設定」→「コントロールパネル」→「アプリケーションの追加と削除」アイコンをクリックする
Windows 98、Windows Meの場合は、「アプリケーションの追加と削除のプロパティ」が表示されます。

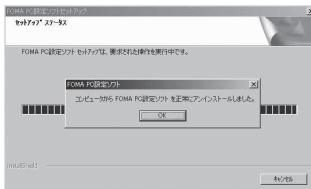
Windows XPの場合

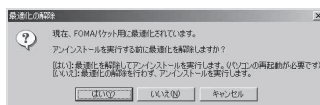
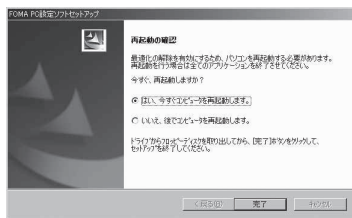
「スタート」→「コントロールパネル」→「プログラムの追加と削除」アイコンをクリックする

3 「NTT DoCoMo FOMA PC設定ソフト」を選択して「変更と削除」をクリックする

4 削除するプログラム名を確認し、「はい」をクリックする

アンインストールが開始されます。

5 「OK」をクリックする

「FOMA PC設定ソフト」のアンインストールが終了します。

おしらせ

●「W-TCP最適化」の解除
「W-TCP最適化」がされている場合は次の画面が表示されます。アンインストールする場合は、通常は「はい」をクリックして、最適化を解除してください。

W-TCP最適化の解除は再起動後に行われます。

W-TCPの設定

「W-TCP設定」はFOMAネットワークで「パケット通信」を行う際に、TCP／IPの伝送能力を最適化するための「TCPパラメータ設定ツール」です。本FOMA端末の通信性能を最大限に活用するには、このソフトウェアによる通信設定が必要です。

最適化の設定と解除

＜Windows XPの場合＞
Windows XPの場合は、ダイヤルアップごとの最適化設定が可能です。

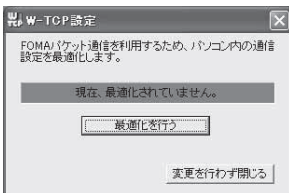
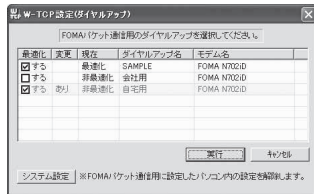
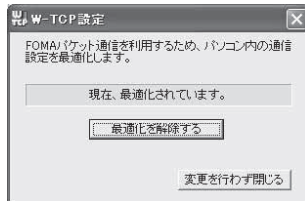
1 プログラムを起動する

(1)「FOMA PC設定ソフト」から操作する場合
プログラム起動後、「マニュアル設定」の「W-TCP設定」をクリックする

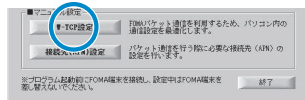
(2) タスクトレイから操作する場合
デスクトップ右下のタスクトレイの「W-TCPアイコン」をクリックし、プログラムを起動する

2 以下の操作を行う

現在開いているすべてのプログラムを終了させ画面表示に従ってパソコンを再起動してください。再起動した後、システム設定の最適化が有効になります。

(1) システム設定が最適化されていない場合
「最適化を行う」をクリックする
「W-TCP(ダイヤルアップ) 設定」画面が表示されます。最適化するダイヤルアップを選択して「実行」をクリックすると、システム設定、ダイヤルアップ設定それぞれの最適化が実行されます。

(2) システム設定が最適化されている場合
「W-TCP(ダイヤルアップ) 設定」画面が表示される。
内容の変更等がある場合は設定を行ってください。

(3) 最適化を解除する場合
「システム設定」をクリックする
「W-TCP設定」画面が表示されます。
「最適化を解除する」をクリックします。

＜Windows 98、Windows Me、Windows 2000の場合＞

1 プログラムを起動する

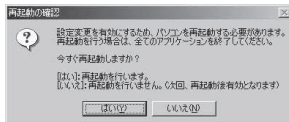
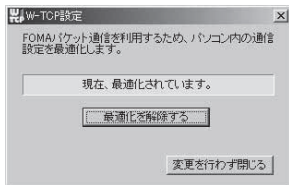
(1)「FOMA PC設定ソフト」から操作する場合
プログラム起動後、「マニュアル設定」の「W-TCP設定」をクリックする

(2) タスクトレイから操作する場合
デスクトップ右下のタスクトレイの「W-TCPアイコン」をクリックし、プログラムを起動する

左クリック

2 以下の操作を行う

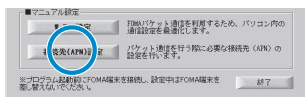
(1) 最適化されていない場合
「W-TCP設定」画面で「最適化を行う」をクリックし、最適化設定を有効にするために、現在開いているすべてのプログラムを終了させ再起動を実行してください。

(2) 最適化されている場合

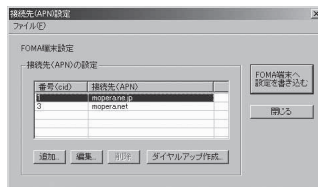
「W-TCP設定」画面で「現在、最適化されています。」と表示される。
本FOMA端末以外での通信等の理由から設定を解除する場合は、「最適化を解除する」をクリックしてください。最適化解除を有効にするために、現在開いているすべてのプログラムを終了させ再起動を実行してください。

接続先（APN）の設定

パケット通信の接続先（APN）を設定します。最大10件まで設定でき、cid（登録番号）の1～10に登録して管理します。

● APN設定（FOMAパケット通信の接続先）は、本FOMA端末に登録される情報であるため、異なるFOMA端末を接続する場合は、再度APN登録をする必要があります。
● パソコンで作成したダイヤルアップの設定を継続利用する場合は、同一APN設定（cid設定）番号を端末に登録してください。
● お買い上げ時、cid1にはmoperaの接続先（APN）「mopera.ne.jp」が、cid3にはmopera Uの接続先（APN）「mopera.net」が登録されていますので、cidを設定するときは、cid2または4～10に接続先（APN）を設定します。

❶「FOMA PC設定ソフト」起動後、「接続先（APN）設定」をクリックする

❷ FOMA端末設定取得画面で「OK」をクリックする

接続された本FOMA端末に自動的にアクセスして登録されている接続先（APN）情報を読み込みます。
本FOMA端末が接続されていない場合は起動しません。

❸ 接続先（APN）の設定をする

接続先（APN）の追加・編集・削除

・**接続先（APN）を追加する場合**
「接続先（APN）設定」画面で、「追加」をクリックする
・**登録済みの接続先（APN）を編集する場合**
「接続先（APN）設定」画面で、対象の接続先（APN）を一覧から選択して「編集」をクリックする
・**登録済みの接続先（APN）を削除する場合**
「接続先（APN）設定」画面で、対象の接続先（APN）を一覧から選択して「削除」をクリックする
cid1とcid3に登録されている接続先は削除できません（cid3を選択して「削除」をクリックしても、実際には削除されず、「mopera.net」に戻ります）。

ファイルへの保存

本FOMA端末に登録された接続先（APN）設定のバックアップを取ったり、編集中の接続先（APN）設定を保存する場合は、ツールバーの「ファイル」メニューからの操作で、接続先（APN）設定の保存ができます。

ファイルからの読み込み

保存された接続先（APN）設定を再編集したり、本FOMA端末に書き込んだりする場合には、ツールバーの「ファイル」メニューからの操作で、パソコンに保存されている接続先（APN）設定を読み込むことができます。

本FOMA端末への接続先（APN）情報の書き込み

「接続先（APN）設定」画面で「FOMA端末へ設定を書き込む」をクリックすると、表示されている接続先（APN）設定を本FOMA端末に書き込むことができます。

ダイヤルアップ作成機能

「接続先（APN）設定」画面で追加・編集された接続先（APN）を選択して「ダイヤルアップ作成」をクリックします。
FOMA端末設定書き込み画面が表示されますので、「はい」をクリックしてください。接続先（APN）への書き込み終了後、「パケット通信用ダイヤルアップの作成」画面が表示されます。
任意の接続名を入力して「アカウント・パスワードの設定」をクリックしてください。ユーザー名とパスワードを入力して（Windows2000、Windows XPの場合は使用可能ユーザーの選択をして）[OK]をクリックしてください。mopera Uまたはmoperaの場合、ユーザー名、パスワードについては空欄でも構いません。

ご利用のプロバイダより、IPおよびDNS情報の設定が指示されている場合は、「パケット通信用ダイヤルアップの作成」画面で「詳細情報の設定」をクリックし、必要な情報を登録して、「OK」をクリックします。
設定入力後、「FOMA端末へ設定を書き込む」をクリックして上書きを確認してから、書き込みを実行してください。

ダイヤルアップネットワークの設定

FOMA PC設定ソフトを使わずに、パケット通信／64Kデータ通信のダイヤルアップ接続の設定を行う方法について説明します。以下のような流れになります。

ATコマンドについて

- ATコマンドとは、モデム制御用のコマンドです。本FOMA端末はATコマンドに準拠し、さらに拡張コマンドの一部や独自のATコマンドをサポートしています。
- ATコマンドを入力することによって、「データ通信」や本FOMA端末の詳細な設定、設定内容の確認（表示）をすることができます。
- 64Kデータ通信を行う場合は「ダイヤルアップネットワークの設定」（P.19）は不要です。「ダイヤルアップの設定を行う」（P.23）に進んでください。

COMポートを確認する

- 接続先（APN）の設定を行う場合、N702iD通信設定ファイルのインストール後に組み込まれた「FOMA N702iD」（モデム）に割り当てられたCOMポート番号を指定する必要があります。ここではCOMポート番号の確認方法について説明します。ここで確認したCOMポートは接続先（APN）の設定（P.21）で使用します。

接続先について＜APN/cid＞

- パケット通信の接続先には、64Kデータ通信と異なり、電話番号を使用しません。接続には電話番号の代わりにAPN（P.21）を設定して接続します。
- APN設定とは、パソコンからパケット通信用の電話帳を登録するようなもので、登録するときは、1から10の登録番号（cid）を付与して登録し、その登録番号（cid）を接続先番号の一部として使用します。お買い上げ時、cid1にはmoperaの接続先（APN）「mopera.ne.jp」が、cid 3にはmopera Uの接続先（APN）「mopera.net」が登録されていますので、cid 2または4～10番に設定します。※1
- APNは「cid（1～10までの管理番号）」によって管理されます。接続する接続先番号を「＊99＊＊＊＜cid番号＞#」とするとcid番号の接続先に接続します。
- moperaに接続する場合は接続先番号を「＊99＊＊＊1#」に、mopera Uに接続する場合は、「＊99＊＊＊3#」にすると、簡単にmoperaまたはmopera Uを利用することができます。※2
- APN設定は、携帯電話に相手先情報（電話番号など）を登録するのと同じように接続先を本FOMA端末に登録します。携帯電話の電話帳と比較すると以下のようになります。

		APN設定	携帯電話の電話帳
登録するデータ		APN	電話番号
		cid	電話帳のメモリ番号
		—	相手の名前
登録のしかた	パソコンを使って登録する	○（FOMA PC設定ソフトなどを使用）	○（専用ソフトが必要）
	携帯電話を使って登録する	×（確認もできません）	○
使いかた		cidを指定して接続	電話帳から検索してかける
		—	本FOMA端末のダイヤルボタンから直接電話番号を入力してかける

※1：「ダイヤルアップネットワーク」の電話番号欄にAPNを入力して接続するのではなく、本FOMA端末側に接続先（インターネットサービスプロバイダ）についてあらかじめAPN設定を行います。
※2：他のインターネットサービスプロバイダなどに接続する場合は、APNを設定し、cidの2番または4～10番に登録してください。APNの設定と登録方法について→P.21

● 準備

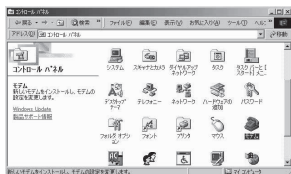
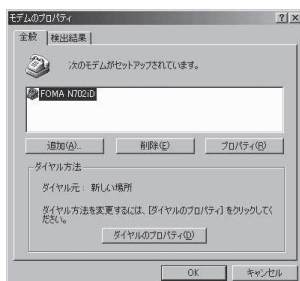
1 本FOMA端末とFOMA USB接続ケーブル（別売）を接続する

2 本FOMA端末の電源を入れて本FOMA端末と接続したFOMA USB接続ケーブルをパソコンに接続する

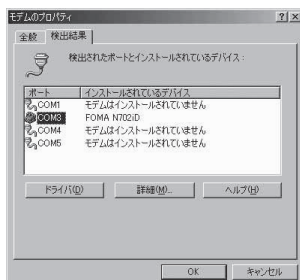
● Windows 98/MeでCOMポートを確認する場合

1 「スタート」→「設定」→「コントロールパネル」を開く

❷ コントロールパネル内の「モデム」を開く

コントロールパネルに「モデム」アイコンが表示されないときは「すべてのコントロールパネルのオプションを表示する」をクリックします。

❸「FOMA N702iD」がセットアップされていることを確認し、「検出結果」タブをクリックする

❹「FOMA N702iD」が設定されているCOMポートを確認し、「OK」をクリックする

確認したCOMポート番号は接続先（APN）の設定（P.21）で使用します。

プロパティ画面に表示される内容およびCOMポートの番号は、お使いのパソコンによって異なります。

● Windows 2000でCOMポートを確認する場合

❶「スタート」→「設定」→「コントロールパネル」を開く

❷ コントロールパネル内の「電話とモデムのオプション」を開く

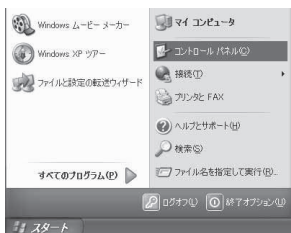
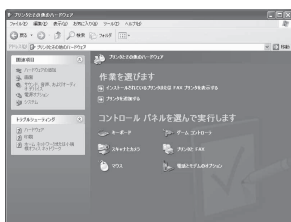
❸「所在地情報」画面が表示された場合は、「市外局番」を入力し、「OK」をクリックする

❹「モデム」タブをクリックして「FOMA N702iD」の「接続先」欄のCOMポートを確認し、「OK」をクリックする

確認したCOMポート番号は、接続先（APN）の設定（P.21）で使用します。

プロパティ画面に表示される内容およびCOMポートの番号は、お使いのパソコンによって異なります。

● Windows XPでCOMポートを確認する場合

1 「スタート」→「コントロールパネル」を開く

2 コントロールパネル内の「プリンタとその他のハードウェア」から、「電話とモデムのオプション」を開く

3 「所在地情報」画面が表示された場合は、「市外局番／エリアコード」を入力して「OK」をクリックする

4 「モデム」タブをクリックして「FOMA N702iD」の「接続先」欄のCOMポートを確認し、「OK」をクリックする

確認したCOMポート番号は、接続先（APN）の設定（P.21）で使用します。

プロパティ画面に表示される内容およびCOMポートの番号は、お使いのパソコンによって異なります。

接続先（APN）を設定する

お買い上げ時	cid1：mopera.ne.jp cid3：mopera.net cid2、4～10：設定なし

設定を行うためには、ATコマンドを入力するための通信ソフトが必要です。ここではWindows標準添付の「ハイパーターミナル」を使った設定方法を説明します。

- パケット通信を行う場合の接続先（APN）を設定します。接続先（APN）は最大10件設定でき、登録番号cid1～cid10（P.19）を付けて管理します。
- お買い上げ時、cid1にはmoperaの接続先（APN）「mopera.ne.jp」が、cid3にはmopera Uの接続先（APN）「mopera.net」が登録されていますので、cid2または4～10番に設定します。
- 登録したcidはダイヤルアップ接続設定での接続番号となります。
- mopera Uまたはmopera以外の接続先（APN）については、インターネットサービスプロバイダまたはネットワーク管理者にお問い合わせください。

<例：Windows XPの場合>

1 本FOMA端末とFOMA USB接続ケーブル（別売）を接続する

2 本FOMA端末の電源を入れて本FOMA端末と接続したFOMA USB接続ケーブルをパソコンに接続する

3 パソコンで、「スタート」→「すべてのプログラム」→「アクセサリ」→「通信」→「ハイパーターミナル」をクリックしてハイパーターミナルを起動する

Windows Me、Windows 2000の場合

「スタート」→「プログラム」→「アクセサリ」→「通信」→「ハイパーターミナル」の順に開く

Windows 98の場合

「スタート」→「プログラム」→「アクセサリ」→「通信」→「ハイパーターミナル」の順に開いた後、「Hypertrm.exe」をダブルクリックする

4 「今後、このメッセージを表示しない」をチェックし、「はい」をクリックする

❺「名前」欄に任意の名前を入力し、「OK」をクリックする

ここでは例として「sample」と入力します。

❻「接続方法」から「FOMA N702iD」を選択し、「OK」をクリックする

接続画面が表示されるので、「キャンセル」をクリックする

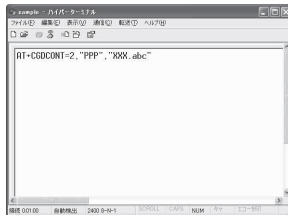
「FOMA N702iD」のCOMポートを選択できる場合

COMポートのプロパティが表示されるので「OK」をクリックする
ここでは例として「COM3」を選択します。実際に「接続方法」で選択する「FOMA N702iD」のCOMポート番号は、「COMポートを確認する」(P.19)を参照して確認してください。

「FOMA N702iD」のCOMポートを選択できない場合

「キャンセル」をクリックして「接続の設定」画面を閉じ、以下の操作を行ってください。
(1) 「ファイル」→「プロパティ」を選択
(2) 「sampleのプロパティ」画面の「接続の設定」タブの「接続方法」欄で「FOMA N702iD」を選択
(3) 「国/地域番号と市外局番を使う」のチェックを外す
(4) 「OK」をクリックする

❼接続先(APN)を入力し、↵を押す

AT+CGDCONT=<cid>,“PPP”,“APN”の形式で入力する
　<cid>：　2、4～10までのうち任意の番号を入力する
すでにcidが設定してある場合は設定が上書きされますので注意してください。
　“PPP”：　そのまま“PPP”と入力します。
　“APN”：　接続先(APN)を“ ”で囲んで入力します。
「OK」と表示されれば、接続先(APN)の設定は完了です。
例：cidの2番にXXX.abcというAPNを設定する場合
AT+CGDCONT=2,"PPP","XXX.abc"
↵と入力します。

❽「OK」と表示されることを確認し、「ファイル」メニューを開き、「ハイパーターミナルの終了」をクリックしてハイパーターミナルを終了する

「“sample”と名前付けされた接続を保存しますか?」と表示されますが、とくに保存する必要はありません。

おしらせ

- P.22の操作7以降、「ハイパーターミナル」で入力したATコマンドが表示されないことがあります。このようなときは、ATE1↵と入力すれば、以降に入力するATコマンドが見えるようになります。
- ATコマンドで接続先(APN)設定をリセットする場合
  - ・リセットを行った場合、cid=1の接続先(APN)設定が「mopera.ne.jp」(初期値)に、cid=3の接続先(APN)設定が「mopera.net」(初期値)に戻り、cid=2、4～10の設定は未登録となります。
    <入力方法>
    AT+CGDCONT=↵(すべてのcidをリセットする場合)
    AT+CGDCONT=<cid>↵(特定のcidのみリセットする場合)
- ATコマンドで接続先(APN)設定を確認する場合
  - ・現在の設定内容を表示させます。
    <入力方法>
    AT+CGDCONT?↵

発信者番号の通知／非通知を設定する お買い上げ時 設定なし

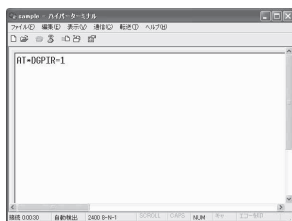
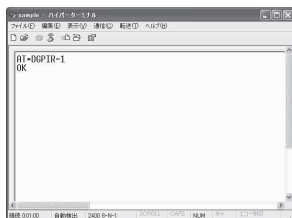
● パケット通信を行うときに、通知／非通知設定（接続先にお客様の発信者番号を通知する、しないの設定）を行うことができます。発信者番号はお客様の大切な情報なので、通知する際には十分にご注意ください。
● 発信者番号の通知／非通知設定は、ダイヤルアップ接続を行う前にATコマンドで設定できます。
● 発信者番号の通知／非通知、または「設定なし」（初期値）に戻すには＊DGPIRコマンド（P.32）で設定します。

1 「ハイパーターミナル」を起動する

2 パケット通信時の発信者番号の通知（186）／非通知（184）を設定する

「AT＊DGPIR=<*n*>」の形式で入力します。

発信／着信応答のときに自動的に184（非通知）を付ける場合
AT＊DGPIR=1 ⏎
と入力する

発信／着信応答のときに自動的に186（通知）を付ける場合
AT＊DGPIR=2 ⏎
と入力する

3 「OK」と表示されることを確認し、「ファイル」メニューの「ハイパーターミナルの終了」をクリックする

ダイヤルアップネットワークでの186（通知）／184（非通知）設定について

ダイヤルアップネットワークの設定でも、接続先の番号に186／184を付けることができます。
＊DGPIRコマンド、ダイヤルアップネットワークの設定の両方で186／184の設定を行った場合、以下のようになります。

ダイヤルアップネットワークの設定（cid＝1の場合）	＊DGPIRコマンドによる通知／非通知設定	発信者番号の通知／非通知
＊99＊＊＊1#	設定なし	通知
	非通知	非通知
	通知	通知
184＊99＊＊＊1#	設定なし	非通知（ダイヤルアップネットワークの通知184が優先される）
	非通知	
	通知	
186＊99＊＊＊1#	設定なし	通知（ダイヤルアップネットワークの通知186が優先される）
	非通知	
	通知	

おしらせ
● ドコモのインターネット接続サービスmopera Uまたはmoperaをご利用になる場合は、発信者番号を「通知」に設定する必要があります。

ダイヤルアップの設定を行う

● ここではパケット通信で moperaに接続する場合を例に説明しています。
● パケット通信で接続する場合、mopera Uでは「＊99＊＊＊3#」、moperaでは「＊99＊＊＊1#」を接続先の電話番号に入力してください。64Kデータ通信で接続する場合、mopera Uでは「＊8701」、moperaでは「＊9601」を接続先の電話番号に入力してください。

Windows 98、Windows Meでダイヤルアップの設定を行う

1 「スタート」→「プログラム」→「アクセサリ」→「通信」→「ダイヤルアップネットワーク」の順に開く

2 「ダイヤルアップネットワークへようこそ」画面が表示されたら、「次へ」をクリックする

この画面はダイヤルアップネットワークをはじめて起動したときのみ表示されます。「次へ」をクリックして操作4に進んでください。
2回目以降は、この画面は表示されず、操作3の「ダイヤルアップネットワーク」画面が表示されます。

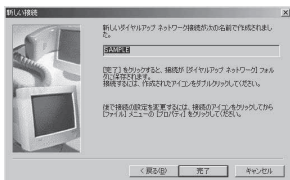
③ ダイヤルアップネットワーク内の「新しい接続」をダブルクリックする

④ 「接続名」欄に任意の名前を入力し、「次へ」をクリックする

「モデムの選択」欄が「FOMA N702iD」になっていることを確認します。「FOMA N702iD」になっていない場合は、「FOMA N702iD」を選択します。

⑤ 「電話番号」欄に接続先の番号を入力し、「次へ」をクリックする

「市外局番」欄には何も入力しません。

⑥ 接続名（任意の名前）を確認し、「完了」をクリックする

⑦ 作成したダイヤルアップのアイコンを選択して、「ファイル」メニューの「プロパティ」を開く

⑧ 「全般」タブで「電話番号」および「接続方法」を確認する

「市外局番とダイヤルのプロパティを使う」のチェックを外す

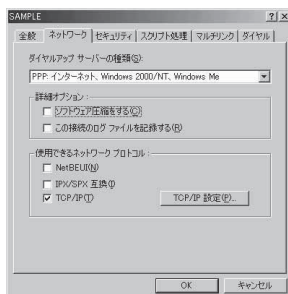
「接続方法」欄が「FOMA N702iD」になっていることを確認します。「FOMA N702iD」になっていない場合は、「FOMA N702iD」を選択します。

⑨ 「ネットワーク」タブをクリックして各種設定を行う

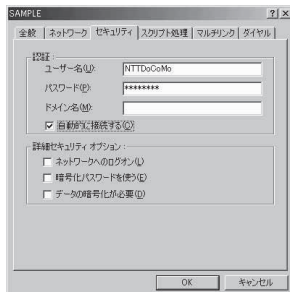
「ダイヤルアップサーバーの種類」欄は、「PPP：インターネット、Windows 2000/NT、Windows Me」を選択する

「使用できるネットワークプロトコル」欄は「TCP／IP」のみをチェックします。

Windows 98の場合

「サーバーの種類」タブをクリックして各種設定を行う
「ダイヤルアップサーバーの種類」欄には「PPP：インターネット、Windows NT Server、Windows 98」を選択してください。
「使用できるネットワークプロトコル」欄は「TCP／IP」のみをチェックします。

⑩「セキュリティ」タブをクリックして設定を確認、「OK」をクリックする

mopera Uまたはmoperaに接続する場合、ユーザー名とパスワードについては空欄でも構いません。
mopera Uまたはmopera以外のプロバイダに接続する場合は、次画面のように「ユーザー名」、「パスワード」欄については、インターネットサービスプロバイダまたはネットワーク管理者から指定されたとおり設定します。

Windows 98の場合
「OK」をクリックする

Windows 2000でダイヤルアップの設定を行う

❶「スタート」→「プログラム」→「アクセサリ」→「通信」→「ネットワークとダイヤルアップ接続」の順に開く

❷ネットワークとダイヤルアップ接続内の「新しい接続の作成」をダブルクリックする

❸「所在地情報」画面が表示された場合は、「市外局番」を入力し、「OK」をクリックする

「所在地情報」画面は操作2で「新しい接続の作成」をはじめて起動したときのみ表示されます。
2回目以降は、この画面は表示されず、「ネットワークの接続ウィザード」画面が表示されるので、操作5に進んでください。

❹「電話とモデムのオプション」画面が表示されてから、「OK」をクリックする

❺「ネットワークの接続ウィザード」画面が表示されてから、「次へ」をクリックする

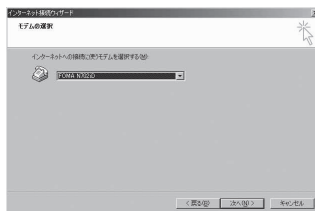
❻「インターネットにダイヤルアップ接続する」を選択し、「次へ」をクリックする

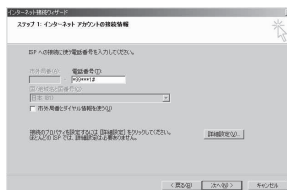
❼「インターネット接続を手動で設定するか、またはローカルエリアネットワーク(LAN)を使って接続します」を選択し、「次へ」をクリックする

❽「電話回線とモデムを使ってインターネットに接続します」を選択し、「次へ」をクリックする

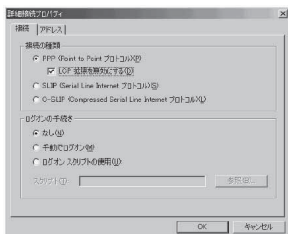
❾「インターネットへの接続に使うモデムを選択する」欄が、「FOMA N702iD」になっていることを確認し、「次へ」をクリックする

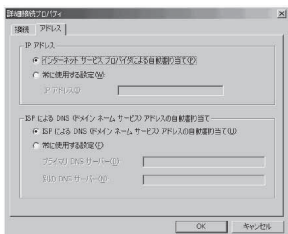
「FOMA N702iD」になっていない場合は、「FOMA N702iD」を選択する

「FOMA N702iD」以外のモデムがインストールされていない場合は、この画面は表示されません。

⑩「電話番号」欄に接続先の番号を入力し、「詳細設定」をクリックする

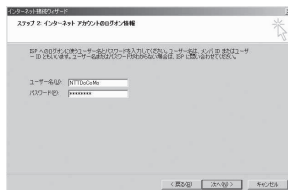
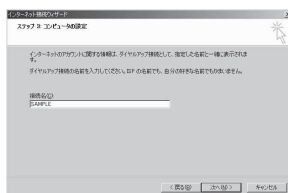
「市外局番とダイヤル情報を使う」のチェックを外してください。

画面はパケット通信でmoperaへ接続する場合の例です。

⑪「接続」タブの中を画面例のように設定し、「アドレス」タブをクリックする

mopera Uまたはmopera以外のプロバイダに接続する場合は、「接続の種類」、「ログオンの手続き」については、インターネットサービスプロバイダまたはネットワーク管理者から指定されたとおり設定します。

⑫「アドレス」タブのIPアドレスおよびDNS（ドメインネームサービス）アドレスを画面例のように設定し、「OK」をクリックする

mopera Uまたはmopera以外のプロバイダに接続する場合、「IPアドレス」、「ISPによるDNS（ドメインネームサービス）アドレスの自動割り当て」については、インターネットサービスプロバイダまたはネットワーク管理者から指定されたとおり設定します。

⑬操作10の画面に戻るので、「次へ」をクリックする

⑭「次へ」をクリックする

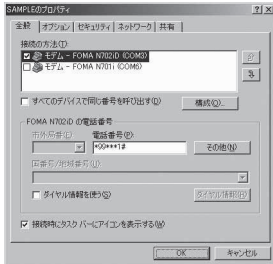
mopera Uまたはmoperaに接続する場合、ユーザー名とパスワードについては空欄でも構いません。
mopera Uまたはmopera以外のプロバイダに接続する場合、次画面のように「ユーザー名」、「パスワード」欄については、インターネットサービスプロバイダまたはネットワーク管理者から指定されたとおり設定します。

⑮「接続名」欄に任意の名前を入力し、「次へ」をクリックする

⑯「いいえ」を選択し、「次へ」をクリックする

⑰「完了」をクリックする

⑱作成したダイヤルアップのアイコンを選択し、「ファイル」メニューの「プロパティ」をクリックする

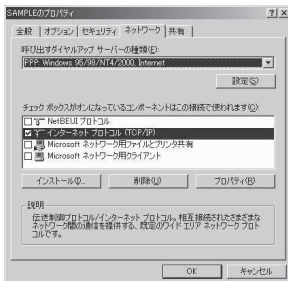
⑲「全般」タブで設定を確認する

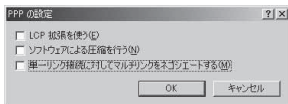
パソコンに2台以上モデムが接続されている場合は、「接続の方法」欄で「モデム－FOMA N702iD」のみにチェックが付いていることを確認し、チェックが付いていない場合には、チェックを付けます。

「ダイヤル情報を使う」にチェックが付いていないことを確認します。チェックが付いている場合には、チェックを外します。

画面はパケット通信でmoperaへ接続する場合の例です。

⑳「ネットワーク」タブをクリックして各種設定を行う

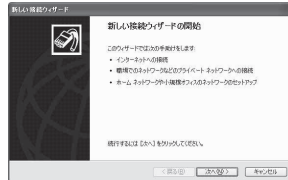
「呼び出すダイヤルアップサーバーの種類」欄は、「PPP：Windows 95/98/NT4/2000, Internet」を選択する

コンポーネントは「インターネットプロトコル（TCP／IP）」のみをチェックします。

㉑「設定」をクリックする

㉒すべてのチェックを外し、「OK」をクリックする

㉓操作20の画面に戻るので「OK」をクリックする

Windows XPでダイヤルアップの設定を行う

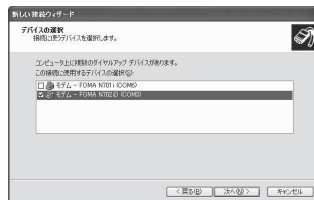
❶「スタート」→「すべてのプログラム」→「アクセサリ」→「通信」→「新しい接続ウィザード」の順に開く

❷「新しい接続ウィザード」画面が表示されたら、「次へ」をクリックする

❸「インターネットに接続する」を選択し、「次へ」をクリックする

❹「接続を手動でセットアップする」を選択し、「次へ」をクリックする

❺「ダイヤルアップモデムを使用して接続する」を選択し、「次へ」をクリックする

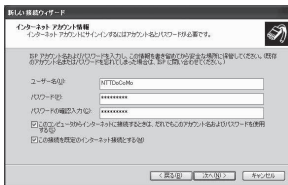
❻「デバイスの選択」画面が表示された場合は、「モデム－FOMA N702iD（COMx）」だけを選択し、「次へ」をクリックする

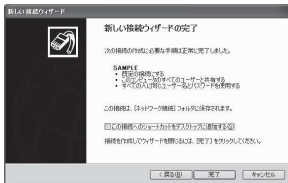
「デバイスの選択」画面は、複数のモデムが存在するときのみ表示されます。
（COMx）は、「COMポートを確認する」（P.19）で表示されるCOMポートの番号です。

❼「ISP名」欄に任意の名前を入力し、「次へ」をクリックする

❽「電話番号」欄に接続先の番号を入力し、「次へ」をクリックする

画面はパケット通信でmoperaへ接続する場合の例です。

❾「次へ」をクリックする

mopera Uまたはmoperaに接続する場合、ユーザー名とパスワードについては空欄でも構いません。
mopera Uまたはmopera以外のプロバイダに接続する場合は、次画面のように「ユーザー名」、「パスワード」、「パスワードの確認入力」欄にプロバイダまたはネットワーク管理者から指定されたユーザー名とパスワードを入力してください。

❿「完了」をクリックする

新しく作成した接続ウィザードが表示されます。

⓫「スタート」→「すべてのプログラム」→「アクセサリ」→「通信」→「ネットワーク接続」を開く

⓬作成したダイヤルアップのアイコンを選択して、「ファイル」メニューの「プロパティ」を開く

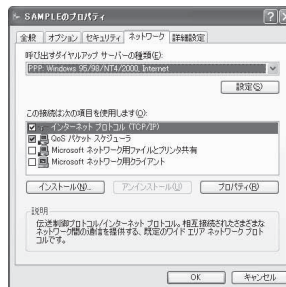
⓭「全般」タブで設定を確認する

パソコンに2台以上のモデムが接続されている場合は、「接続の方法」欄で「モデム－FOMA N702iD」のみにチェックが付いていることを確認し、チェックが付いていない場合には、チェックを付けます。
「ダイヤル情報を使う」にチェックが付いていないことを確認します。チェックが付いている場合には、チェックを外します。

画面はパケット通信でmoperaへ接続する場合の例です。

⓮「ネットワーク」タブをクリックして、各種設定を行う

「呼び出すダイヤルアップサーバーの種類」欄は、「PPP:Windows 95/98/NT4/2000,Internet」を選択する

「この接続は次の項目を使用します」欄は、「インターネットプロトコル(TCP／IP)」を選択します。「QoSパケットスケジューラ」は設定変更ができませんので、そのままにしておいてください。

⓯「設定」をクリックする

⑯ すべてのチェックを外し、「OK」をクリックする

⑰ 操作14の画面に戻るので「OK」をクリックする

ダイヤルアップ接続を実行する

ここでは、設定したダイヤルアップを使って、パケット通信のダイヤルアップ接続をする方法について説明しています。

＜例：Windows Meの場合＞

❶ FOMA USB接続ケーブル（別売）で本FOMA端末とパソコンを接続する

取り付け方法→P.4

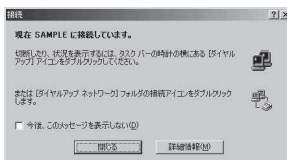
❷「スタート」→「プログラム」→「アクセサリ」→「通信」の順に選択し、「ダイヤルアップネットワーク」を開く

❸ 接続先のアイコンを選択し、「接続」を開く

❹ 各項目を確認し、「接続」をクリックする

「電話番号」には、ダイヤルアップネットワークに設定した接続先の番号が表示されます。
接続先がmopera Uまたはmoperaの場合、ユーザー名とパスワードについては空欄でも構いません。
mopera Uまたはmopera以外のプロバイダに接続する場合は、「ユーザー名」、「パスワード」欄にプロバイダまたはネットワーク管理者から指定されたユーザー名とパスワードを入力してください。

＜接続中の状態を示す画面が表示されます＞
この間にユーザー名、パスワードの確認やログオン処理が行われます。

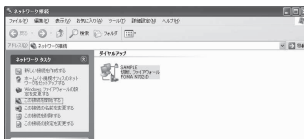
＜接続の完了＞
ブラウザソフトを起動してサイトやインターネットホームページを閲覧したり、電子メールなどを利用できます。
次の画面が表示されない場合は、「ダイヤルアップネットワークの設定」（P.19）、「ダイヤルアップの設定を行う」（P.23）を再度確認してください。

＜例：Windows XPの場合＞

❶ FOMA USB接続ケーブル（別売）で本FOMA端末とパソコンを接続する

取り付け方法→P.4

❷「スタート」→「すべてのプログラム」→「アクセサリ」→「通信」→「ネットワーク接続」を開く

❸ 接続先を開く

P.28の操作7で設定したISP名のダイヤルアップの接続先アイコンを選択して、「ネットワークタスク」→「この接続を開始する」を選択するか、接続先のアイコンをダブルクリックする

❹ 内容を確認し、「ダイヤル」をクリックする

次の画面はmoperaに接続する場合の例です。mopera Uまたはmoperaに接続する場合、ユーザー名とパスワードについては空欄でも構いません。

＜接続中の状態を示す画面が表示されます＞

この間にユーザー名、パスワードの確認などのログオン処理が行われます。

＜接続の完了＞

接続が完了すると、デスクトップ右下のタスクバーのインジケータから、次のようなメッセージが数秒間表示されます。

ブラウザソフトを起動してサイトやインターネットホームページを閲覧したり、電子メールなどを利用できます。

次のメッセージが表示されない場合は、「ダイヤルアップネットワークの設定」(P.19)、「ダイヤルアップの設定を行う」(P.23)を再度確認してください。

通信状態については、P.15を参照してください。

切断のしかた

インターネットブラウザを終了しただけでは、通信回線が切断されない場合があります。以下の操作で確実に切断してください。ここではWindows XPを例に説明します。

❶ タスクトレイのダイヤルアップアイコンをダブルクリックする

インターネット接続の状態画面が表示されます。

ダイヤルアップアイコン

❷「切断」をクリックする

おしらせ

● パソコンに表示される通信速度は実際の通信速度とは異なる場合があります。

ATコマンド一覧

本FOMA端末から使用できるATコマンド

● ATコマンド一覧では、以下の略を使用しています。
[＆F]　：AT&Fコマンドで設定が初期化されるコマンドです。
[＆W]　：AT&Wコマンドで設定が保存されるコマンドです。ATZコマンドで設定値を呼び戻すことができます。

モデムポートコマンド一覧

FOMA N702iD（モデム）で使用できるコマンドです。

ATコマンド	概要	パラメータ/説明	コマンド実行例
A/	直前に実行したコマンドを再実行します。またキャリッジリターンは不要です。	−	A/ OK
AT	−	本コマンドの後に本一覧表のコマンドを付加することで、本FOMA端末のモデム機能を制御することができます。 ※ATのみ入力した場合でもOKが応答されます。	AT OK
AT%V	本FOMA端末のバージョンを表示します。	−	AT%V Ver1.00 OK
AT&C*n* [&F] [&W]	DTEへの回路CD信号の動作条件を選択します。	*n*＝0：CDは常にON *n*＝1：CDは相手モデムのキャリアに応じて変化する（初期値）	AT&C1 OK
AT&D*n* [&F] [&W]	DTEから受け取る回路ER信号がON／OFF遷移したときの動作を選択します。	*n*＝0：ERの状態を無視する（常にONとみなす） *n*＝1：ERがONからOFFに変わると、オンラインコマンド状態になる *n*＝2：ERがONからOFFに変わると回線を切断し、オフラインコマンド状態になる（初期値）	AT&D1 OK
AT&E*n*	接続時の速度表示の仕様を選択します。	*n*＝0：無線区間通信速度を表示する。 *n*＝1：DTE　シリアル通信速度を表示する（初期値）	AT&E0 OK
AT&F*n*	すべてのレジスタを工場出荷時の設定値に戻します。通信中に本コマンドが入力された場合、回線切断処理を行います。	*n*＝0のみ指定可能（省略可）	（オフラインモード時） AT&F OK AT&F? ERROR AT&F＝? ERROR （オンラインコマンドモード時） AT&F NO CARRIER （オフラインモードへ移行）
AT&S*n* [&F] [&W]	DTEへ出力するデータセットレディ信号の制御を設定します。	*n*＝0：DRは常にON（初期値） *n*＝1：DRは回線接続時（通信呼確立時）にON	AT&S0 OK
AT&W*n*	現在の設定値を記憶します。	*n*＝0のみ指定可能（省略可）	AT&W0 OK AT&W OK AT&W? ERROR AT&W＝? ERROR

ATコマンド	概要	パラメータ/説明	コマンド実行例
AT＊DANTE	本FOMA端末の電波の受信レベルを表示します。	0：本FOMA端末の電波の受信レベルが圏外 1：本FOMA端末の電波の受信レベルが1本 2：本FOMA端末の電波の受信レベルが2本 3：本FOMA端末の電波の受信レベルが3本	AT＊DANTE ＊DANTE:3 OK AT＊DANTE＝? ＊DANTE:(0-3) OK
AT＊DGANSM=*n*	パケット着信呼に対する着信拒否／許可設定のモードを設定します。本コマンドによる設定は、設定コマンド入力後のパケット通信着信呼に対し有効となります。	*n*=0：着信拒否設定（AT＊DGARL）および着信許可設定（AT＊DGAPL）を無効にする（初期値） *n*=1：着信拒否設定を有効にする *n*=2：着信許可設定を有効にする AT＊DGANSM? ：現在の設定値を表示する	AT＊DGANSM=0 OK AT＊DGANSM? ＊DGANSM:0 OK
AT＊DGAPL=*n*[,cid]	パケット着信呼に対して着信許可を行うAPNを設定します。APNの設定は、+CGDCONTで定義された<cid>パラメータを用います。	*n*=0：<cid>で定義されたAPNを着信許可リストに追加する *n*=1：<cid>で定義されたAPNを着信許可リストから削除する <cid> が省略された場合には、すべてのcidに適用する AT＊DGAPL? ：着信許可リストを表示する	AT＊DGAPL =0,1 OK AT＊DGAPL? ＊DGAPL:1 OK AT＊DGAPL =1 OK AT＊DGAPL? OK
AT＊DGARL=*n* [,cid]	パケット着信呼に対して着信拒否を行うAPNを設定します。APN設定は、+CGDCONT で定義された<cid>パラメータを用います。	*n*=0 ：<cid>で定義されたAPNを着信拒否リストに追加する *n*=1 ：<cid>で定義されたAPNを着信拒否リストから削除する <cid> が省略された場合には、すべてのcidに適用する AT＊DGARL? ：着信拒否リストを表示する	AT＊DGARL =0,1 OK AT＊DGARL? ＊DGARL:1 OK AT＊DGARL =1 OK AT＊DGARL? OK
AT＊DGPIR=*n*	本コマンドの設定は、パケット通信の発信時、着信時の通知・非通知設定が有効となります。 ダイヤルアップネットワークでの設定でも、接続先の番号に186（通知）／184（非通知）を付けることができます。（P.23）	*n*=0：APNをそのまま使用する（初期値） *n*=1：APNに“184”を付加して使用する（常に非通知） *n*=2：APNに“186”を付加して使用する（常に通知） AT＊DGPIR? ：現在の設定値を表示する	AT＊DGPIR =0 OK AT＊DGPIR? ＊DGPIR:0 OK
AT＊DRPW	本FOMA端末の受信電力指標値を表示します。	−	AT＊DRPW ＊DRPW:0 OK AT＊DRPW=? ＊DRPW:(0-75) OK
AT+CEER	直前の呼の切断理由を表示します。	<report> 切断理由一覧（P.42）	AT+CEER +CEER:36 OK
AT+CGDCONT	パケット発信時の接続先（APN）を設定します。	P.39	P.39
AT+CGEQMIN	PPP パケット通信確立時にネットワーク側から通知されるQoS（サービス品質）を許容するかどうかの判定基準値を登録します。	AT+CGEQMIN=［パラメータ］（P.39） AT+CGEQMIN=? ：設定可能な値のリストを表示する AT+CGEQMIN? ：現在の設定値を表示する	P.39
AT+CGEQREQ	PPP パケット通信の発信時にネットワークへ要求するQoS（サービス品質）を設定します。	AT+CGEQREQ = ［パラメータ］（P.39） AT+CGEQREQ=? ：設定可能な値のリストを表示する AT+CGEQREQ? ：現在の設定値を表示する	P.39

ATコマンド	概要	パラメータ/説明	コマンド実行例
AT+CGMR	本FOMA端末のバージョンを表示します。	－	AT+CGMR 12345XXXXXXXXXXX OK
AT+CGREG=*n* [&F] [&W]	ネットワーク登録状態を通知するかどうかを設定します。 応答される通知により圏内／圏外を表示します。	*n*=0：通知なし（初期値） *n*=1：通知あり 圏内・圏外が切り替わったときに通知する AT+CGREG? ：現在の設定値を表示する +CGREG:<*n*>,<stat> *n*：設定値 stat： 0：パケット圏外 1：パケット圏内 4：不明 5：パケット圏内	AT+CGREG=1 OK（通知ありに設定） AT+CGREG? +CGREG:1,0 OK AT+CGREG=? +CGREG:（0,1） OK （圏外） （圏外から圏内に移動した場合） +CGREG:1
AT+CGSN	本FOMA端末の製造番号を表示します。	－	AT+CGSN 12345XXXXXXXXXXX OK
AT+CLIP=*n*	64Kデータ通信の着信時に、相手の発信番号をパソコンに表示できます。	*n*=0：リザルトを出さない（初期値） *n*=1：リザルトを出す リザルト：+CLIP(*n*,*m*) *m*=0：発信時に相手に番号を通知しないNW設定 *m*=1：発信時に相手に番号を通知するNW設定 *m*=2：不明	AT+CLIP=0 OK AT+CLIP=? +CLIP:(0,1) OK (+CLIP=1設定時に着信) RING +CLIP: "090XXXXXXXX",177,"123",136
AT+CLIR=*n*	64Kデータ通信の発信時に、電話番号を相手に通知するかどうかを設定します。	*n*=0：CLIRサービスの契約に従う *n*=1：通話相手に番号発信しない *n*=2：通話相手に番号発信する（初期値） リザルト：+CLIR(*n*,*m*) *m*=0：CLIRは起動していない（常時通知） *m*=1：CLIRは起動している（常時非通知） *m*=2：不明 *m*=3：CLIRテンポラリーモード（非通知デフォルト） *m*=4：CLIRテンポラリーモード（ 通知デフォルト） ※ ＃31＃、＊31＃が付加されていない場合はCLIR設定が優先されます。	AT+CLIR=0 OK AT+CLIR? +CLIR:0,1 OK AT+CLIR=? +CLIR:(0-2) OK
AT+CMEE=*n* [&F] [&W]	本FOMA端末のエラーレポートの有無の設定を行います。	*n*=0：ERRORリザルトを用いる（初期値） *n*=1：+CME ERROR:<err>リザルトコードを使用し、<err>は数値を用いる *n*=2：+CME ERROR:<err>リザルトコードを使用し、<err>は文字を用いる AT+CMEE? ：現在の設定値を表示する 右記は本FOMA端末や接続に異常がある場合のコマンドの実行例です。 +CME ERRORリザルトコードは下記のとおりです。 1：no connection to phone 10：SIM not inserted 15：SIM wrong 16：incorrect password 100：unknown	AT+CMEE=0 OK AT+CNUM ERROR AT+CMEE=1 OK AT+CNUM +CME ERROR:10 AT+CMEE=2 OK AT+CNUM +CME ERROR:SIM not inserted

ATコマンド	概要	パラメータ/説明	コマンド実行例
AT+CNUM	本FOMA端末の自局電話番号を表示します。	number：電話番号 type ： 129または145 129 ： 国際アクセスコード+を含まない 145 ： 国際アクセスコード+を含む	AT+CNUM +CNUM:,"+8190XXXXXXXX",145 OK
AT+CPIN	本FOMA端末にPINコードを入力します。	書式 ： AT+CPIN="<pin>","<newpin>" 本コマンドは AT+CPIN? を入力して応答されるリザルトコードの状態によって本FOMA端末のPIN1コード、PIN2コードおよびPINロック解除コードを入力するためのコマンドです。 画面にてPINコード入力やPINロック解除コードを要求されている場合でも、AT+CPIN?入力時のリザルトコードの状態によって本コマンドを利用してPIN入力ができない場合があります。PINコード変更を目的として本コマンドを使用しないでください。<pin>と<newpin>は" "で囲んでください。 AT+CPIN?のリザルト +CPIN：READY：PIN1 コード、PIN2コード PIN1ロック解除コード、PIN2ロック解除コードが入力できない状態 +CPIN：SIM PIN：PIN1入力待ち状態 +CPIN：SIM PIN2：PIN2入力待ち状態 +CPIN：SIM PUK：PIN1ロック状態 (PIN1ロック解除コード入力可) +CPIN：SIM PUK2：PIN2ロック状態 (PIN2ロック解除コード入力可) 右記はPINコード「1234」、PINロック解除コード「12345678」の入力例です。	(+CPIN?入力時に、+CPIN: READYが応答される状態) AT+CPIN="1234" ERROR (+CPIN?入力時に、+CPIN: READYが応答される状態) AT+CPIN="12345678","1234" ERROR (+CPIN?入力時に、+CPIN: SIM PINが応答される状態) AT+CPIN="1234" OK (+CPIN?入力時に、+CPIN: SIM PUKが応答される状態:PIN1ロック状態) AT+CPIN="12345678","1234" OK (+CPIN?入力時に、+CPIN: SIM PUK2が応答される状態:PIN2ロック状態) AT+CPIN="12345678","1234" OK AT+CPIN? +CPIN:READY OK AT+CPIN=? OK
AT+CR=*n* [&F] [&W]	回線接続時にCONNECTのリザルトコードを表示する前に、ベアラサービス種別を表示します。	*n*=0： 表示しない（初期値） *n*=1： 表示する <serv> ： パケット通信を意味する “GPRS”のみ表示する（回線種別により“SYNC”, “AV32K”,“AV64K”を表示） AT+CR? ：現在の設定値を表示する	AT+CR =1 OK ATD＊99＊＊＊1# +CR ：GPRS CONNECT
AT+CRC=*n* [&F] [&W]	着信時に拡張リザルトコードを使用するかどうかを設定します。	*n*=0： +CRINGを使用しない（初期値） *n*=1： +CRING.<type>を使用する +CRINGの書式は以下のとおり +CRING：SYNC +CRING：AV64K ：GPRS “PPP”,,,“<APN>” AT+CRC? ： 現在の設定値を表示する	AT+CRC=0 OK AT+CRC? +CRC ：0 OK (PPPoverUD着信時) +CRING：SYNC (AV64K着信時) +CRING：AV64K (PPPパケット着信時) +CRING：GPRS “PPP”,,,“〈APN〉”

ATコマンド	概要	パラメータ/説明	コマンド実行例
AT+CREG=*n* [&F] [&W]	圏内・圏外情報の表示に関するリザルト表示の有無を設定します。 ● OSによっては設定できない場合があります。	*n*=0：通知なし（初期値） *n*=1：通知あり 圏内・圏外が切り替わったときに通知する AT+CREG? ：現在の設定値を表示する +CREG ：<*n*>,<stat> *n* ：設定値 stat ： 0 ：音声圏外 1 ：音声圏内 4 ：不明 5 ：音声圏内	AT+CREG=1 OK （通知ありに設定） AT+CREG? +CREG ：1,0 OK （圏外） （圏外から圏内に移動した場合） +CREG ：1
AT+GMI	メーカ名（NEC）を表示します。	－	AT+GMI NEC OK
AT+GMM	本FOMA端末の製品名（FOMAN702iD）を表示します。	－	AT+GMM FOMAN702iD OK
AT+GMR	本FOMA端末のバージョンを表示します。	－	AT+GMR Ver1.00 OK
AT+IFC=*n*,*m* [&F] [&W]	フロー制御方式を選択します。	*n* ：DCE by DTE *m*：DTE by DCE 0：フロー制御なし 1：XON／XOFFフロー制御 2：RS／CS（RTS/CTS）フロー制御 初期値は*n*,*m*=2,2 AT+IFC?：現在の設定値を表示する	AT+IFC=2,2 OK AT+IFC? +IFC：2,2 OK AT+IFC=? +IFC：（0,1,2）,(0,1,2) OK
AT+WS46=*n* [&F] [&W]	本FOMA端末の無線通信網を選択します。	*n*=22：W- CDMA（Wideband CDMA）のみ指定可能（初期値）	AT+WS46=22 OK
AT¥S	現在設定されている各コマンド、S レジスタの内容を表示します。	－	AT¥S E1 Q0 V1 X4 &C1 &D2 &S0 &E1 ¥V0 S000=000 S002=043 S003=013 S004=010 S005=008 S006=005 S007=060 S008=003 S010=001 S030=000 S103=001 S104=001 OK
AT¥V*n* [&F] [&W]	接続時の応答コード仕様を選択します。	*n*=0：拡張リザルトコードを使用しない（初期値） *n*=1：拡張リザルトコードを使用する	AT¥V0 OK
ATA	本FOMA端末が着信したモードに従って着信処理を行います。	－	RING ATA CONNECT

ATコマンド	概要	パラメータ/説明	コマンド実行例
ATD	本FOMA端末に対してパラメータ、ダイヤルパラメータの指定に従って自動発信処理を行います。	ATD＊99＊＊＊<cid>#　：パケット通信 <cid>　1～10：+CGDCONT 設定したAPNを表す AT+CBST=116,1,0設定時 ATD<電話番号>　：64K通信 AT+CBST=131,1,0設定時 ATD<電話番号>　：AV32K通信 AT+CBST=134,1,0設定時 ATD<電話番号>　：AV64K通信	<パケット通信> ATD＊99＊＊＊1# CONNECT <64K通信> AT+CBST=116,1,0 OK ATD090XXXXXXXX CONNECT <AV32K通信> AT+CBST=131,1,0 OK ATD090XXXXXXXX CONNECT <AV64K通信> AT+CBST=134,1,0 OK ATD090XXXXXXXX CONNECT
ATE*n* [&F] [&W]	コマンドモードにおいてDTEに対するエコーバックの有無を指定します。	*n*=0　：エコーバックなし *n*=1　：エコーバックあり（初期値）	ATE1 OK
ATH*n*	本FOMA端末に対してオンフック動作を行います。	*n*=0　：回線を切断する（省略可）	（パケット通信中） +++ OK ATH NO CARRIER
ATI*n*	認識コードを表示します。	*n*=0：「NTT DoCoMo」を表示する *n*=1：製品名を表示する（+GMMと同じ） *n*=2：本FOMA端末のバージョンを表示する（+GMRと同じ） *n*=3：ACMP信号の各要素を表示する *n*=4：本FOMA端末の有する通信機能の詳細を表示する	ATI0 NTT DoCoMo OK ATI1 FOMAN702iD OK
ATO*n*	通信中にオンラインコマンドモードから、オンラインデータモードに戻ります。	*n*=0：オンラインコマンドモードからオンラインデータモードに戻す（省略可）	ATO CONNECT
ATQ*n* [&F] [&W]	DTEへのリザルトコードを表示するかどうか設定します。	*n*=0　：リザルトコードを表示する（初期値） *n*=1　：リザルトコードを表示しない	ATQ0 OK ATQ1 （このとき、OKは応答されません）
ATS0=*n* [&F] [&W]	本FOMA端末が自動着信するまでの呼び出し回数を設定します。	*n*=0　：自動着信しない（初期値） *n*=1-255：指定したリング回数で自動着信する ATS0?：現在の設定値を表示する	ATS0=0 OK ATS0? 000 OK
ATS2=*n* [&F]	エスケープキャラクタの設定を行います。	*n*=43　：初期値 *n*=127：エスケープ処理は無効 ATS2?　：現在の設定値を表示する	ATS2=43 OK ATS2? 043 OK
ATS3=*n* [&F]	キャリッジリターン（CR）キャラクタの設定を行います。	*n*=13　：初期値（*n*=13のみ指定可） ATS3?　：現在の設定値を表示する	ATS3=13 OK ATS3? 013 OK
ATS4=*n* [&F]	ラインフィード（LF）キャラクタの設定を行います。	*n*=10　：初期値（*n*=10のみ指定可） ATS4?　：現在の設定値を表示する	ATS4=10 OK ATS4? 010 OK

ATコマンド	概要	パラメータ/説明	コマンド実行例
ATS5=*n* [&F]	バックスペース（BS）キャラクタの設定を行います。	*n*=8　：初期値（*n*=8のみ指定可） ATS5?　：現在の設定値を表示する	ATS5=8 OK ATS5? 008 OK
ATS6=*n* [&F]	ダイヤルするまでのポーズ時間（秒）を設定します。	本コマンドは設定できますが、動作は致しません。	ATS6=5 OK ATS6? 005 OK ATS6＝? ERROR
ATS7=*n* [&F] [&W]	発信時、設定時間以内に接続できなければ、回線を切断します。	*n*=1～120（初期値は60）（単位：秒） 121～255の指定は120とみなす ATS7?：現在の設定値を表示する	ATS7=60 OK ATS7? 060 OK
ATS8=*n* [&F]	カンマダイヤルによるポーズ時間（秒）を設定します。	本コマンドは設定できますが、動作は致しません。	ATS8=3 OK ATS8? 003 OK ATS8＝? ERROR
ATS10=*n* [&F][&W]	自動切断遅延時間設定（1/10秒）	本コマンドは設定できますが、動作は致しません。	ATS10=1 OK ATS10? 001 OK ATS10＝? ERROR
ATS30=*n* [&F]	ユーザデータの送受信がない場合、この時間で切断します。	*n*=0：不活動タイマオフ(初期値) *n*=0～255 *n*は分単位で設定します。	ATS30=0 OK ATS30? 000 OK ATS30=? ERROR
ATS103=*n* [&F]	着サブアドレスキャラクタを設定します。	*n*=0：＊ *n*=1：/（初期値） *n*=2：￥（￥マークあるいはバックスラッシュ）	ATS103=0 OK ATS103? 000 OK ATS103=? ERROR
ATS104=*n* [&F]	発サブアドレスキャラクタを設定します。	*n*=0：# *n*=1：%（初期値） *n*=2：&	ATS104=0 OK ATS104? 000 OK ATS104=? ERROR
ATV*n* [&F] [&W]	すべてのリザルトコードを数字表記または英文字表記に設定します。	*n*=0：リザルトコードを数値で返送する *n*=1：リザルトコードを文字で返送する（初期値）	ATV1 OK

ATコマンド	概要	パラメータ/説明	コマンド実行例
ATX*n* [&F] [&W]	接続時のCONNECT表示に速度表示の有無を設定します。 また、ビジートーン、ダイヤルトーンの検出を行います。	*n*=0：ダイヤルトーン検出なし、ビジートーン検出なし、速度表示なし *n*=1：ダイヤルトーン検出なし、ビジートーン検出なし、速度表示あり *n*=2：ダイヤルトーン検出あり、ビジートーン検出なし、速度表示あり *n*=3：ダイヤルトーン検出なし、ビジートーン検出あり、速度表示あり *n*=4：ダイヤルトーン検出あり、ビジートーン検出あり、速度表示あり（初期値）	ATX1 OK
ATZ	設定を不揮発メモリの内容にリセットします。 通信中に本コマンドが入力された場合、回線切断処理を行います。	－	（オンラインコマンドモード時） ATZ NO CARRIER （オフラインコマンドモード時） ATZ OK
+++	オンラインデータモードのとき、エスケープシーケンスが実行されると回線を切断することなくオンラインコマンド状態に移行します。	－	（オンラインデータモード） +++（表示は見えない） OK

● ATコマンドの補足説明

■ 動作しないコマンド

以下のコマンドは、エラーにはなりませんがコマンドの動作はしません。

・ATT（トーン設定）
・ATP（パルス設定）

■ コマンド名：+CGDCONT

・概要

パケット発信時の接続先（APN）の設定を行います。本コマンドは設定コマンドですが、&Wにより書き込まれる不揮発メモリには記憶されません。&F、Zによるリセットも行われません。

・書式

+CGDCONT=[<cid>[,"PPP"[,"<APN>"]]]

・パラメータ説明

パケット発信時の接続先（APN）を設定します。設定例は以下のコマンド実行例を参照してください。

<cid>※1：1～10

<APN>※1：任意

※1：<cid>は、本FOMA端末内に登録するパケット通信での接続先（APN）を管理する番号です。本FOMA端末では1～10が登録できます。<cid>=1にはmopera.ne.jpが、<cid>=3にはmopera.netが初期値として登録されていますので、cidは2または4～10に設定します。
<APN>は、接続先を示す接続先ごとの任意の文字列です。

・パラメータを省略した場合の動作

+CGDCONT=：すべての <cid> に対し初期値を設定します。

+CGDCONT=<cid>：指定された <cid> を初期値に設定します。

+CGDCONT=?：設定可能な値のリスト値を表示します。

+CGDCONT?：現在の設定を表示します。

・コマンド実行例

abcというAPN名を登録する場合のコマンド（cidが2の場合）

AT+CGDCONT=2,"PPP","abc"
OK

■ コマンド名：+CGEQMIN=[パラメータ]

・概要

PPPパケット通信確立時にネットワーク側から通知されるQoS（サービス品質）を許容するかどうかの判定基準値を登録します。

設定パターンは、以下のコマンド実行例に記載されている4パターンが設定できます。

本コマンドは設定コマンドですが、&Wにより書き込まれる不揮発メモリには記憶されません。&F、Zによるリセットも行われません。

・書式

+CGEQMIN=[<cid>[,,<Maximum bitrate UL>[,<Maximum bitrate DL>]]]

・パラメータ説明

<cid>※1 ：1～10

<Maximum bitrate UL>※1：なし（初期値）または64

<Maximum bitrate DL>※1：なし（初期値）または384

※1：<cid>は、本FOMA端末内に登録するパケット通信での接続先（APN）を管理する番号です。本FOMA端末では1～10が登録できます。<cid>=1にはmopera.ne.jpが、<cid>=3にはmopera.netが初期値として登録されていますので、cidは2または4～10に設定します。<Maximum bitrate UL>および<Maximum bitrate DL>は、本FOMA端末と基地局間の上りおよび下り最低通信速度[kbps]の設定です。なし（初期値）の場合はすべての速度を許容しますが、64および384を設定した場合はこれらの値以外での速度の接続は許容しないため、パケット通信がつながらない場合がありますのでご注意ください。

・パラメータを省略した場合の動作

+CGEQMIN= ：すべての<cid>に対し初期値を設定します。

+CGEQMIN=<cid>：指定された<cid>を初期値に設定します。

・コマンド実行例

以下の4パターンのみ設定できます。（1）の設定が各cidに初期値として設定されています。

(1) 上り / 下りすべての速度を許容する場合のコマンド（cidが2の場合）
AT+CGEQMIN=2
OK

(2) 上り64kbps/下り384kbpsの速度のみ許容する場合のコマンド（cidが4の場合）
AT+CGEQMIN=4,,64,384
OK

(3) 上り 64kbps/ 下りはすべての速度を許容する場合のコマンド（cidが5の場合）
AT+CGEQMIN=5,,64
OK

(4) 上りすべての速度/下り384kbpsの速度のみ許容する場合のコマンド（cidが6の場合）
AT+CGEQMIN=6,,,384
OK

■ コマンド名：+CGEQREQ=[パラメータ]

・概要

PPPパケット通信の発信時にネットワークへ要求するQoS（サービス品質）を設定します。

設定は以下のコマンド実行例に記載されている1パターンのみで初期値としても設定されています。

本コマンドは設定コマンドですが、&Wにより書き込まれる不揮発メモリには記憶されません。&F、Zによるリセットも行われません。

・書式

+CGEQREQ=[<cid>]

・パラメータ説明

<cid>※1：1～10

※1：<cid>は、本FOMA端末内に登録するパケット通信での接続先（APN）を管理する番号です。本FOMA端末では1～10が登録できます。<cid>=1にはmopera.ne.jpが、<cid>=3にはmopera.netが初期値として登録されていますので、cidは2または4～10に設定します。

・**パラメータを省略した場合の動作**

+CGEQREQ=:すべての<cid>に対し初期値を設定します。

+CGEQREQ=<cid>: 指定された <cid> を初期値に設定します。

・**コマンド実行例**

以下の1パターンのみ設定できます。各cidに初期値として設定されています。

上り64kbps/下り384kbpsの速度で接続を要求する場合のコマンド（cidが2の場合）

AT+CGEQREQ=2

OK

モデムポートコマンドの設定値の保存について

AT＋CGDCONTコマンドによる接続先（APN）設定（P.21）、AT+CGEQMIN／AT＋CGEQREQコマンドによるQoS設定、AT＊DGAPL／AT＊DGARL／AT＊DGANSMコマンドによる着信許可・拒否設定およびAT＊DGPIRコマンドによるパケット通信の番号通知／非通知の設定を除き、ATコマンドによる設定は、本FOMA端末の電源OFF／ON時に初期化されてしまいますので、ご注意ください。なお、［&W］がついているコマンドについては、設定後に

AT&W ↵

と入力することにより保存できます。このとき、［&W］がついているほかの設定値も同時に保存されます。これらの値は、電源OFF／ON後であっても、

ATZ ↵

と入力することにより、設定値を呼び戻すことができます。

リザルトコード

■ データ通信に関するリザルトコード

数字表示	文字表示	意　味
0	OK	正常に実行しました。
1	CONNECT	相手と接続しました。
2	RING	着信が来ています。
3	NO CARRIER	回線が切断されました。
4	ERROR	コマンドを受け付けることができません。
6	NO DIALTONE	ダイヤルトーンの検出ができません。
7	BUSY	話中音検出中です。
8	NO ANSWER	接続完了タイムアウト。
100	RESTRICTION	ネットワークが規制中です。
101	DELAYED	リダイヤル発信規制中です。

■ 拡張リザルトコード

・&E0の時

数字表示	文字表示	意　味
121	CONNECT 32000	FOMA端末−基地局間速度32,000bpsで接続しました。
122	CONNECT 64000	FOMA端末−基地局間速度64,000bpsで接続しました。
125	CONNECT 384000	FOMA端末−基地局間速度384,000bpsで接続しました。

・&E1の時

数字表示	文字表示	意　味
5	CONNECT 1200	FOMA端末−PC間速度1,200bpsで接続しました。
10	CONNECT 2400	FOMA端末−PC間速度2,400bpsで接続しました。
11	CONNECT 4800	FOMA端末−PC間速度4,800bpsで接続しました。
13	CONNECT 7200	FOMA端末−PC間速度7,200bpsで接続しました。
12	CONNECT 9600	FOMA端末−PC間速度9,600bpsで接続しました。
15	CONNECT 14400	FOMA端末−PC間速度14,400bpsで接続しました。
16	CONNECT 19200	FOMA端末−PC間速度19,200bpsで接続しました。
17	CONNECT 38400	FOMA端末−PC間速度38,400bpsで接続しました。
18	CONNECT 57600	FOMA端末−PC間速度57,600bpsで接続しました。
19	CONNECT 115200	FOMA端末−PC間速度115,200bpsで接続しました。
20	CONNECT 230400	FOMA端末−PC間速度230,400bpsで接続しました。
21	CONNECT 460800	FOMA端末−PC間速度460,800bpsで接続しました。

■ 通信プロトコルリザルトコード

数字表示	文字表示	意　味
1	PPPoverUD	PPPoverUDで接続（BC=UDI、+CBST=116,1,0）
2	AV32K	AV（テレビ電話）[32K]で接続
3	AV64K	AV（テレビ電話）[64K]で接続
5	PACKET	パケットで接続

おしらせ

- ATV*n*コマンド（P.37）が*n*=1に設定されている場合には文字表示形式（初期値）、*n*=0に設定されている場合には数字表示形式でリザルトコードが表示されます。
- 従来のRS-232Cで接続するモデムとの互換性を保つため通信速度の表示はしますが、FOMA端末−PC間はFOMA USB接続ケーブル（別売）で接続されているため、実際の接続速度と異なります。
- 「RESTRICTION」（数字表示：100）が表示された場合には、通信ネットワークが混雑しています。しばらくしてから接続し直してください。

リザルトコードの表示例

■ ATX0が設定されている場合

AT¥V*n*コマンド（P.35）の設定に関係なく接続完了の際にCONNECTのみの表示となります。

文字表示例： ATD＊99＊＊＊1#
CONNECT

数字表示例： ATD＊99＊＊＊1#
1

■ ATX1が設定されている場合

・ATX1、AT¥V0が設定されている場合（初期値）
接続完了のときに、CONNECT <FOMA端末－PC間の速度>の書式で表示します。

文字表示例： ATD＊99＊＊＊1#
CONNECT 460800

数字表示例： ATD＊99＊＊＊1#
1　21

・ATX1、AT¥V1が設定されている場合※1
接続完了のときに、以下の書式で表示します。
CONNECT <FOMA端末－PC間の速度> PACKET ＜接続先APN＞/＜上り方向（FOMA端末→無線基地局間）の最高速度＞/＜下り方向（FOMA端末←無線基地局間）の最高速度＞
以下の例は、mopera.ne.jpに、送信最大64kbps、受信最大384kbpsで接続したことを表します。

文字表示例： ATD＊99＊＊＊1#
CONNECT 460800
PACKET mopera.ne.jp /64/384

数字表示例： ATD＊99＊＊＊1#
1　21　5

※1：ATX1、AT¥V1を同時に設定した場合、ダイヤルアップ接続が正しく行えない場合があります。AT¥V0だけでのご利用をおすすめします。

切断理由一覧

リクエストの内容に関する切断理由は、以下のとおりです。

■ パケット通信

値	理　由
26 27	APNが存在しないか、または正しくありません。
30	ネットワークより切断されました。
33	要求したサービスオプションは申し込まれていません。
36	正常に切断されました。

■ 64Kデータ通信

値	理　由
1	指定した番号は存在しません。
16	正常に切断されました。
17	相手側が通信中のため、通信ができません。
18	発信しましたが、指定時間内に応答がありませんでした。
19	相手側が呼出中のため通信ができません。
21	相手側が通信を拒否しました。
63	ネットワークのサービスおよびオプションが有効ではありません。
65	提供されていない伝達能力を指定しました。
88	端末属性の異なる端末に発信したか、または着信を受けました。